学校法人
日本赤十字学園
Japanese Red Cross Academy

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ANNUAL REPORT

学校法人日本赤十字学園 平成30年度事業活動のご報告

学校法人日本赤十字学園

質の高い教育を実践し、社会の変化に対応できる大学に

日本赤十字学園は、日本赤十字社の看護師養成の高等教育部門として創設され、昭和29年（1954年）の開設以来、皆さまのご支援のもとに、2万人を超える卒業生を輩出し、全国に6看護大学と6大学院、1短期大学を設置する他に類をみない学校法人に発展いたしました。

近年、大学運営においては、18歳人口の減少や看護系大学・学部の新設による大学間の競争が激化し、優秀な学生の確保は極めて困難な状況となっております。優秀な学生を確保するため、最新医療に対応した高度な教育環境の維持・拡充を図り、老朽化した学舎や教育施設・設備等の更新に備えた財源確保など、多くの課題を抱えているところであります。

このような状況下にあって、学園各大学はそれぞれの立地環境のもとに、数多くの看護系大学から学生、保護者そして教員から選ばれる、魅力ある大学であり続けるために、質の高い特色ある教育を実践し、社会の変化に対応できることが必要と考えております。

そのため、日本赤十字学園といたしましても、学園各大学の教学及び大学運営機能の向上を図り、高い実践能力を発揮できる大学組織の構築と質の高い教育、研究活動に不可欠な安定的な経営基盤の構築を目指し、第一次中期計画（平成21年度～平成25年度）に続き、第二次中期計画（平成26年度～平成30年度）が平成30年度に完結いたしました。引き続き令和元年度を初年度として、質の高い教育の提供と研究活動を推進し、優秀な学生の確保対策の取組み及び財政基盤の確立に向けた施策の実践等、合理的で適正な業務運営に取り組みたいと存じます。

これからも学園各大学がそれぞれの特色を活かし、高度で専門的な知識と技術に加え、苦しんでいる人と痛みを分かち合い、患者に寄り添うことができる看護・介護の専門職として、心の豊かな人材の育成を続けてまいることとしておりますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人日本赤十字学園

理事長 大塚義治

建学の精神

「人間のいのちと健康、
尊厳を守るために
力を尽くす人材を育てる」

現実を踏まえて理想を忘れず、今、手元にある苦痛を一つでも
取り除く努力によって理想に近づく。
これが赤十字の「人道」です。赤十字の「人道」は、
医療や福祉の分野における原点と言えます。
学校法人日本赤十字学園は、
赤十字の人道の理念に基づき、人間のいのちと健康、
尊厳を守る担い手として地域で、
世界で活躍できる人材を育成します。

CONTENTS

日本赤十字学園の看護大学・大学院・短期大学 …… 02
特集（地域貢献活動の取組み） …… 04
日本赤十字学園第二次中期計画 …… 06

学園全体の動向 …… 07

各大学・短期大学の動向
- 日本赤十字北海道看護大学 …… 08
- 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学 …… 10
- 日本赤十字看護大学 …… 12
- 日本赤十字豊田看護大学 …… 14
- 日本赤十字広島看護大学 …… 16
- 日本赤十字九州国際看護大学 …… 18

事業の概要
学生の動向 …… 20
教育活動の動向 …… 25
研究活動の動向 …… 26
奨学金の給付・貸与状況 …… 28
日本赤十字国際人道研究センターの動向 …… 30

財務の概要
資金収支決算 …… 32
事業活動収支決算 …… 34
貸借対照表 …… 36
財産目録 …… 38
参考（過去5ヵ年の財務データ） …… 39

法人の概要
学園の沿革 …… 42
学園の組織/教職員の概要 …… 43
役員・評議員一覧 理事会・常務理事会・評議員会の開催状況 …… 44
各大学・短期大学の施設概要 …… 45

得られる受験資格・取得資格

- 看護師
- 養護教諭一種免許
- 保健師
- 介護福祉士
- 助産師

日本赤十字豊田看護大学

創設：平成元年（1989年）

～地球に寄り添う看護～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	480	120
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

日本赤十字広島看護大学

創設：平成12年（2000年）

～赤十字の理念のもと、看護の知恵と心と技を育みます～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	500	125
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

日本赤十字九州国際看護大学

創設：平成13年（2001年）

～ひとりを看る目、その目を世界へ～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

各大学院における専門看護師教育課程

大学院名	教育課程
日本赤十字北海道看護大学大学院	がん看護、慢性看護、精神看護
日本赤十字秋田看護大学大学院	がん看護、精神看護
日本赤十字看護大学大学院	がん看護、小児看護、慢性看護、クリティカルケア看護、精神看護、老年看護、災害看護、在宅看護
日本赤十字豊田看護大学大学院	小児看護、精神看護
日本赤十字広島看護大学大学院	がん看護、小児看護、精神看護、災害看護
日本赤十字九州国際看護大学大学院	クリティカルケア看護、在宅看護

日本赤十字北海道看護大学

創設：平成11年（1999年）

～手渡しの看護を～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	32	16
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

日本赤十字秋田看護大学
日本赤十字秋田短期大学

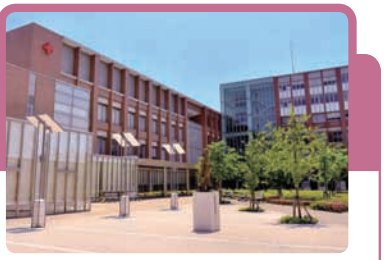
創設：平成8年（1996年）

～「生きる」を支える人になる～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	24	12
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2
短期大学 介護福祉学科	60	30

日本赤十字看護大学

創設：昭和29年（1954年）



～Vision for Humanity
—人道の実現に向けて～

	収容定員	入学定員
看護学部 看護学科	540 (3年次編入学 10)	130
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	60	30
看護学研究科 国際保健助産学専攻 修士課程	30	15
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	24	8
看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程5年一貫制	10	2

各大学における認定看護管理者教育課程

大学名	教育課程
日本赤十字看護大学	看護管理学領域
日本赤十字広島看護大学	基盤看護領域　看護教育・管理学分野

各大学における認定看護師教育課程

大学名	教育課程
日本赤十字広島看護大学	摂食・嚥下障害看護

特集

地域貢献活動の取組み

日本赤十字北海道看護大学

災害に対する支援活動（北海道胆振東部地震）

協力して段ボールベッドを積み込む
学生と北見市青年会議所会員

平成30年9月6日に発生した北海道胆振地方中東部を震源とする最大震度7の地震により、道内に大きな被害が出ました。

本学では、行政機関（政府・北海道庁）と連携をとり、学内の災害備蓄品である段ボールベッド400台を提供しました。いち早く現地へ輸送するため、学生ボランティア及び北見市青年会議所会員の皆さん（総勢40人）とともに、トラック2台に約4時間かけて積み込みを行いました。今回の地震では、これまでの災害と比較しても例を見ない速さで段ボールベッドを主とした避難所環境の改善がなされ、現地で担当した医師からは、エコノミークラス症候群等の健康被害が軽減されたことの報告があったほか、被災された方々からは大変感謝いただき、行政からも高い評価が得られました。

また、学生ボランティアによる義援金の募金活動が9月22日・23日に行われ、2日間で128,155円の募金をいただきました。

日本赤十字秋田看護大学／日本赤十字秋田短期大学

2018AKITA防災キャンプフェスの開催

新聞紙で紙皿&スリッパ作り

「第3回2018AKITA防災キャンプフェス」が平成30年9月22日・23日の両日、日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学グラウンドを主会場に、秋田魁新報社と秋田県内の赤十字施設で構成される実行委員会の主催で開催されました。

本企画は、地域の特性を踏まえて、警察、消防、自衛隊、気象庁、国土交通省、行政機関、教育機関、社会福祉協議会、自治会、民間企業等が相互の強みを活かして連携し、災害時には避難所となる本学で地域住民が主体的に防災を学び、地域コミュニティが助け合って（共助）災害への対応に取り組むことができることを目的とした防災プログラムとなっています。

当日は5,000人を超える市民の参加を得て、防災に関する知識や災害に対する備えへの意識の喚起など、市民の防災意識の向上に貢献するとともに、地域社会における大学の機能強化の視点からも意義ある活動となりました。

日本赤十字看護大学

和歌山県湯浅町学校防災プロジェクト

防災マップを作成する参加者

和歌山県湯浅町、早稲田大学及び本学が平成30年5月に協定を締結し、防災教育プログラムの開発を開始しました。この協定は「学校防災プロジェクト」として防災教育プログラムの開発を実施することに関し、教育活動や研究、学生交流などの各分野において相互に連携及び協力することを目的としています。

同年8月には本学教員と学生が湯浅町に向かい、3者協力のもと、非常食の調理、避難所体験、防災マップ・防災ゲーム作り、VR（仮想現実）360度映像化体験、避難経路ツアーなどのイベント（「防災プロジェクト2018」）を開催しました。当日は中学生を含む多くの地元住民の参加があり、防災意識の向上に貢献することができました。

各大学では、地元自治体等と連携のうえ教育研究機能を活かし、地域の様々な課題の解決のための社会貢献活動を行うとともに、「赤十字の大学」として災害時には被災者のための支援活動を行っています。平成30年度に行われた主な地域貢献活動を紹介します。

日本赤十字豊田看護大学

大学近隣での健康測定会

本学のヘルスプロモーションセンターでは、地域の保健・医療・福祉に寄与することを目的とした活動を行っており、平成28年から愛知県豊田市の宮口一色地区で健康測定会を実施しています。

平成30年6月には、教職員6人と学生6人が宮口一色区民会館を訪れ、血圧、握力、長座体前屈、骨量の測定を37人に行いました。当日は、「日赤豊田学生つばめ隊」が摂食嚥下障害予防のための体操「つばめ体操」を行い、高齢者と関わる良い機会となりました。今後も地域での普及活動を定着させつつ、活動の場を広げていくことを目標としています。

つばめ体操を行う参加者

日本赤十字広島看護大学

平成30年7月豪雨災害における教職員・学生の災害救援活動

平成30年7月5日からの断続的な大雨により、西日本一帯では河川の氾濫や土砂災害が各地で発生し、広島県内各地でも、多数の死傷者をはじめ、多くの家屋の流失や土砂流入などの被害を受けました。

本学では直接的な被害はありませんでしたが、交通遮断により大学や実習先への通学に支障を来しました。本学としては、災害発生直後から、教員を先遣隊として派遣し、避難所における被災者の健康状態の把握にあたったほか、DMAT（災害派遣医療チーム）隊員として県の保健医療調整本部に、職員を救護所における連絡調整業務に派遣しました。

避難所での被災者の救護活動

また、看護学の教員をはじめ、学生ボランティアを災害ボランティアセンター等に長期間にわたって派遣し、被災者はもとより、ボランティアの皆さんの健康管理や健康相談業務に当たりました。

日本赤十字九州国際看護大学

2018夏の課外授業inむなかた

福岡県宗像市が夏休みの期間中に、親子で多彩な体験活動が楽しめるように実施している事業「夏の課外授業inむなかた」の一環として、本学において小学生を対象に「Tシャツに体の中を描いてみよう」をテーマとした課外授業を毎年開催しています。

このイベントは、参加した子ども達が、自分自身の体を知るためのきっかけとするとともに、参加された親子のふれあいを通して、健やかな心身の発達に貢献すること、また、参加者と本学教員及び学生が交流することで、地域に根ざした社会活動の一環となることを目的としています。

夏の課外授業inむなかたに参加した子ども達

当日は15組の親子、総勢35人が参加し、授業中は親子で向き合い、聴診器を使って臓器の音を聴いて、真剣に描く姿が見られ、賑やかなイベントとなりました。

日本赤十字学園第二次中期計画
（平成26年度～平成30年度）
～「生きる」を支える人づくり～

日本赤十字学園が策定する中期計画については、平成21年度から平成30年度までの10年間に2つの中期計画を策定しました。

第一次中期計画（平成21年度～平成25年度）では、各大学の四大化が完了し、すべての大学に大学院修士課程が設置されるなど、大学教育の基盤が構築されました。

第二次中期計画（平成26年度～平成30年度）では、各大学の教学機能、事務機能の向上により、課題に的確に対応する大学組織を構築するとともに、質の高い教育、研究活動に不可欠な安定的な経営基盤の確立を目指し、次の５つのビジョン（目指すべき大学のイメージ）を掲げて事業取組の指針とし、年度ごとに目標を掲げ事業に取り組んでまいりました。平成30年度は第二次中期計画の最終年度として、各大学の地域の実情に応じて達成に向けた努力をした結果、一部課題があるものの、全体的には所期の目的を概ね達成されたものと考えております。

当学園といたしましては、引き続き未達成の課題に取り組むとともに、将来の学園の発展に期するため新たな課題に取り組むこととし、令和元年度を初年度とした「第三次中期計画（令和元年度～令和5年度）」を策定し、近年の文部科学省の教育行政施策の動向、公益財団法人大学基準協会が示す大学評価の項目などを視野に入れつつ、学園各大学の教育環境の維持・向上に資するため、学園大学間の連携を活かした大学運営、内部質保証体制の確立、情報通信技術（ＩＣＴ）を活用した教育の提供などを目標に掲げ、事業に取り組むこととしております。

日本赤十字学園第二次中期計画ビジョン

1. 質の高い教育を実践する大学
2. 社会の変化に対応できる大学
3. 6大学の連携の強みを生かした大学
4. 地域に貢献する開かれた大学
5. 健全な経営基盤に立つ成長する大学

入学者数等の状況

平成30年度の入学者数は学園全体で看護学部770人、大学院修士課程83人、博士課程24人、短期大学19人の合計896人となりました。また、卒業者数は看護学部738人、大学院修士課程83人、博士課程15人、短期大学21人の合計857人となりました。（20～23ページ参照）

入学式で挨拶する新入生

相次ぐ自然災害への対応

平成30年7月豪雨災害では、日本赤十字広島看護大学の教職員及び学生が災害救援活動に参加したほか、9月に発生した北海道胆振東部地震では、日本赤十字北海道看護大学が行政機関と連携し、学内の災害備蓄品である段ボールベッド400台を北海道厚真町の避難所に提供するなどの活動を行いました。（4～5ページ参照）

募金協力を呼び掛ける学生

日本赤十字看護大学
さいたま看護学部の開設準備

（令和2年4月開設予定）

日本赤十字看護大学さいたま看護学部では、平成31年1月、埼玉県さいたま市に学舎が竣工し、令和元年度中は教育関係設備・機器の整備に取り組み、令和2年4月の開設に向けて準備を進めております。

竣工したさいたま看護学部の学舎

共同災害看護学専攻博士課程（DNGL）及び
共同看護学専攻博士後期課程から初の修了生誕生

平成26年度、日本赤十字看護大学に開設した国公私立5大学による5年一貫制の「共同災害看護学専攻博士課程（DNGL）」及び平成28年度に北海道、秋田、豊田、広島、九州の5看護大学に開設した「共同看護学専攻博士後期課程」が完成年次をむかえ、初の修了生が誕生し、博士の学位が授与されました。

手渡しの看護を

日本赤十字北海道看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0157-66-3311　住　所　北海道北見市曙町664-1

学長
河口 てる子

日本赤十字北海道看護大学は、平成11年に世界自然遺産の知床半島が位置する北海道オホーツク圏の中核都市である北見市に、赤十字の2番目の看護大学として設立され、20年が経過しました。

平成15年には大学院修士課程を開設し、平成28年には赤十字5大学で共同看護学専攻博士後期課程を開設、平成31年3月最初の修了生に本学第1号の博士号を授与することができました。この共同教育課程での博士課程では、構想を赤十字6大学に問うて3年、準備に2年、開設から完成年度まで3年、合計8年の長き期間を専攻長として押し進めました。感激もひとしおです。

平成30年は災害の多い年でしたが、北海道でも9月に北海道胆振東部地震が起こりました。震度7の激震による大規模な土砂崩れや家屋の倒壊だけでなく、全道で停電（ブラックアウト）するという災害で、北海道内はまひ状態に陥入りました。この時本学は、救護班だけでなく、段ボールベッド400台を厚真町に送り届け、避難所生活の改善とエコノミークラス症候群などの健康被害防止のために活動しました。本学の災害対策教育センターでの厳冬期避難所展開・宿泊演習等が、さっそく役に立った場面でした。

■厳冬期避難所展開・宿泊演習2019

平成31年1月26日・27日、本学で厳冬期避難所展開・宿泊演習2019（本学災害対策教育センター主催）を実施しました。

9回目を迎えた今回の演習では、北海道胆振東部地震で本学が行った支援活動が報道されたことや積み重ねてきた演習が全国各地の防災関係者（保健・医療職者）から高い関心が得られていることもあり、参加者が早い段階で約180人の定員に達しました。当日は北海道胆振東部地震で実際に使用している段ボールベッドの展開や防災メーカーの合同演習等を含めた25時間にわたる厳しい演習が実施されました。

避難所演習に参加する学生

段ボールベッドの組立て方法を説明する職員

■学術情報リポジトリの運用開始

平成30年5月より学術情報リポジトリの運用を開始しました。学術情報リポジトリとは、研究・教育活動において得られた研究成果や教育資源などを収集・蓄積・保存しておくためのウェブサイトです。

本学の学術研究の発展に役立てるとともに、社会に広く貢献することを目的としており、収集した研究成果などはインターネットを用いて学内外を問わず無償で提供しています。

また、昭和28年文部省令第9号「学位規則」により、学位を授与した博士論文はインターネットを利用して公表するよう定められているため、その公表の場としての役割も担っています。

学術情報リポジトリ

■共同看護学専攻博士後期課程第1号修了生の誕生

平成28年開設の共同看護学専攻博士後期課程から第1号の修了生が誕生し、開学20年目となる節目の年に無事、完成年次を迎えることができました。

この間には、1,758人の学部卒業生、110人の修士課程修了生を輩出し、オホーツク圏唯一の看護系大学にあって、大学院（修士・博士）の開校は、本学が目標としてきた教育研究機能の充実はもちろんのこと、看護職者が地域で働きながら継続教育（最終段階）を受けることが可能になりました。

今後は、地域看護者の育成に貢献できるよう取り組んでまいります。

修了生に学位記を授与

■市民公開講座を開催

市民公開講座

平成30年10月3日、10日、17日の3回にわたり、「認知症高齢者を支える」をメインテーマに市民公開講座を開催しました。

第1回は「認知症とは」、第2回は「認知症高齢者との接し方」、第3回は「認知症高齢者を支える地域社会のしくみ」をテーマとして、認知症の概要や分類、認知症の症状や治療といった認知症という病気の基本的内容から、行政の地域包括ケアシステムや自助・共助・互助・公助の概要、北見市における高齢者の現状と取組みについて等、幅広い内容の講座となりました。

今回の市民公開講座は毎年実施している講座の中で関心が高い内容であったこともあり、235人の方が受講されました。

■北海道内国公立私立大学学長懇談会の開催

平成30年9月27日、北見市（本校等）において、第26回北海道内国公立私立大学学長懇談会を開催しました。国公立と私立の垣根を越えた懇談会は年1回開催され、今回は25人の学長（理事・副学長等代理を含む）が出席しました。

懇談では、道内の急速な少子化問題や学生の東京一極集中に対応すべく、優秀な学生確保に向けた魅力のある大学作りや、地域と共存するために大学に求められていること、教育改革、経営改革等、様々な意見交換が行われました。

国公立私立大学学長懇談会

血液センターを訪問する参加者

■赤十字海外スタディーツアー

平成31年2月23日～3月4日、日本赤十字秋田看護大学との共催でアメリカ・ロサンゼルスにて看護研修を実施しました。（本学8人、秋田4人参加）

研修では、米国赤十字社ロサンゼルス支部、米国赤十字血液センターへ訪問し、アメリカでの赤十字活動について学ぶほか、アメリカの医療制度の講義や、病院見学、高齢者施設でのボランティア、語学学校での英会話レッスンなどを行いました。学生達は、日本とアメリカの医療制度、看護教育等が大きく違うことに関心が高かったようでした。

■赤十字フェスタ2018in北見

平成30年6月30日に北見赤十字病院で開催された「赤十字フェスタ2018in北見」にブース出展しました。

大学で備蓄している段ボールベッドの体験や本学が共同研究開発した暴風雪車内対策キット「セーフ」の紹介を行い、子ども連れのお母さんに大変好評をいただきました。暴風雪車内対策キット「セーフ」は、平成28年3月より販売を開始し、これまでに210セット以上販売されています。

・セット内容：カイロ、マスク、ようかん、携帯トイレ、携帯ラジオ、寝袋等
・価格：12,800円～20,000円（税別）　※セット内容により料金が異なる

赤十字フェスタにブース出展

「生きる」を支える人になる

日本赤十字秋田看護大学
日本赤十字秋田短期大学

設置学部等 〔大学〕看護学部／大学院 〔短期大学〕介護福祉学科

電 話 018-829-4000 住 所 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3

学長
安藤 広子

看護大学は、明治29年の日本赤十字社秋田県支部の救護看護婦養成に始まる120余年の歴史をもち、フローレンス・ナイチンゲール記章受章者3人のほか、国内外で活躍する多くの優秀な看護師を輩出してきました。社会の看護教育へのニーズに応えるべく、専門学校から短期大学、大学へと改組転換し、平成23年度に大学院研究科の修士課程、平成28年度には博士課程の開設に至りました。修士課程では、専門看護師（がん看護・精神看護）及び助産師国家試験受験資格取得の教育科目も開講しています。また、平成30年度からは養護教諭教育課程を開設しております。

短期大学は、平成8年に看護学科と日本赤十字学園で唯一の介護福祉学科として開学しました。看護学科が大学へ改組転換してから、介護福祉学科は単科短期大学として現在に至り、これまで1,004人もの優秀な卒業生を輩出してきました。赤十字の理念「人道」と介護福祉の「人間の尊厳」の価値理念に基づき、介護福祉士に求められる思考力、判断力、実践力を習得し、「人道」の理念を生活支援へと具現化できる専門職の養成を目指しています。介護福祉士は平成29年の資格制度改正に伴い、国家試験制度が開始されました。本学では、少人数による学修の充実に力を入れており、制度改正以来、100%の合格率となっています。

看護大学・短期大学ともに、建学の精神である「人道：humanity」を基調とし、『「生きる」を支える人になる』を目指し、赤十字人道フォーラムや災害救護訓練を通じての赤十字精神の涵養、災害時の支援活動・人命救助、ボランティア活動等の体験学習を実施しています。そして、高等教育機関としての更なる充実した教育内容の構築を目指し、秋田キャンパスの将来構想の検討に取り組んでいます。

■災害救護訓練の実施

平成30年9月20日、平成30年度災害救護訓練を実施しました。

本訓練は災害時に行われる医療救護活動や社会福祉施設利用者の避難支援活動における支援者の役割を理解し、将来、災害医療救護・災害福祉の推進者として成長できるように基礎的能力を培うことを目的としています。

災害救護訓練の様子

■赤十字海外スタディーツアー

看護学部1年生3人と引率教員1人が、平成30年8月18日から26日の日程で、日本赤十字看護大学、日本赤十字広島看護大学との共催で「赤十字海外スタディーツアー」に参加しました。このツアーは、赤十字発祥の地であるソルフェリーノ（イタリア）と赤十字の創設者アンリー・デュナンの生誕の地ジュネーブ（スイス）を訪問し、国際赤十字の歴史・組織・活動及び国連の人道・開発期間の役割について理解を深めることを目的として、毎年開催されています。

赤十字国際委員会（ICRC）を訪問

■病院合同就職説明会の開催

平成30年9月21日に看護学部で病院合同就職説明会を行い、県内外27の病院から、看護部長や師長、各病院で活躍している卒業生が後輩に会いに来てくれました。学生たちは説明に熱心に聞き入り、勤務状況や院内教育の体制、福利厚生や休みの日の過ごし方など様々な質問を投げかけ、将来の看護師としての自分自身のキャリアに対する関心と意識の高さがうかがえました。

説明を熱心に聞く参加者

■がん看護専門看護師が誕生

公益社団法人日本看護協会の平成30年度専門看護師認定審査において、日本赤十字秋田看護大学の大学院修士課程がん看護学分野（高度実践看護師養成課程）を修了した3人の看護師が専門看護師（CNS）として認定されました。

専門看護師（CNS）として認定された川原看護師

■精神看護分野の専門看護師を養成開始

大学院修士課程において専門看護師（CNS）を養成していますが、現在の「がん看護分野」に加えて、新たに平成31年度の入学生から「精神看護分野」の専門看護師養成を開始することとなりました。専門看護師は、水準の高い看護を効率よく行うための技術と知識を深め、卓越した看護を実践できると認められた看護師で、「専門看護分野」ごとに公益社団法人日本看護協会が認定しています。

「精神看護学分野（38単位）」の教育課程開設は秋田県内で初めて、東北地方でも3校目となります。

■介護福祉学科卒業生座談会

平成30年12月7日、短期大学介護福祉学科の卒業生3人を招いて座談会を開催しました。平成8年に赤十字として初めて全国唯一の介護福祉士教育機関として誕生した介護福祉学科は、これまでに1,004人の卒業生を輩出し、県内外の福祉・介護の現場をはじめ、教育機関や民間企業など様々なステージで活躍し、社会を支えています。

今回は、福祉や介護の現場で長年にわたって活躍され、様々な経験や知識を蓄積して福祉・介護施設の管理運営に携わってこられた卒業生より、日ごろ感じていることや将来への思い、介護福祉士がこれからの社会で果たすべき役割や可能性を大いに語っていただきました。

卒業生座談会に参加した卒業生と教員

■大学コンソーシアムあきた高等教育セミナー

平成30年11月27日、本学、国際教養大学及び秋田大学など、秋田県内の高等教育機関で構成される「大学コンソーシアムあきた」主催による平成30年度高等教育セミナー「（発達）障がいと多様性：インクルーシブ教育を考える」が開催されました。

差別のない合理的配慮のもと、多様性を尊重する教育が行われているのか、教育機関で働く教職員が今一度振り返るとともに、求められるインクルーシブ教育について深く学ぶ契機となりました。

大学コンソーシアムあきた高等教育セミナー

■冬季防災キャンプの実施

平成31年2月16日、17日に、赤十字防災ボランティアステーション会員を対象とした「冬季防災キャンプ」を実施しました。これは冬季に大規模災害が発生し、電気・ガス・水道等のライフラインが断たれた状況を想定し、災害時に役立つアウトドア技術（生きるための技術）と赤十字雪上安全法講習会を学ぶものです。当日の天気は雪、最高気温4℃、最低気温－1℃という条件のもと、1泊2日の日程で、赤十字雪上安全法講習会、冬季避難所設営、調理、テント泊といった活動を体験しました。

厳しい条件のなか行われた冬季防災キャンプ

Vision for Humanity―人道の実現に向けて

日本赤十字看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　03-3409-0875　住　所　東京都渋谷区広尾4-1-3

学長
守田 美奈子

少子高齢化やIT、ゲノムなどの技術進歩、グローバリゼーション等社会変化は大きく、それに対応できる看護学の知の開発の必要性が高まっています。既存の知識、技術を身に着けるだけでなく、学生ひとり一人が看護学を探究し開発する主体的、積極的な姿勢が求められます。そのために学部教育では、基礎ゼミは20人程度とし一部の科目を2クラス制にするなど、少人数教育に力を入れています。看護技術演習では、臨床の場で創造的な看護が展開できるためにナラティブアプローチを用いた演習を試み、母性看護学や助産学教育ではチーム基盤型学習法（TBL）を取り入れています。

大学院では、年齢や経験、職位が異なる多様な学生が、それぞれの科目で専門分野の枠を超えて互いに議論し合い、切磋琢磨し合いながら授業、実習や研究等に取り組んでいます。その結果、平成30年度は修士課程46人、博士課程12人、DNGL1人の学位取得者を輩出しました。

また、平成30年度は和歌山県湯浅町及び早稲田大学人間科学学術院、米国のセントアンソニー看護大学、グランバレー州立大学カーフホフ看護学部との協定を締結しました。学部生・大学院生は、2020東京オリンピック・パラリンピックや防災活動に向けての活動など、課外での活動も活発に行っております。さいたま看護学部の開設に向けての準備も順調に進み、1月に建物の完成を迎えました。新しいカリキュラムの検討を進めていますが、さいたま看護学部の開設準備も含め、令和元年度はより本格的な活動を展開してまいります。

■さいたま看護学部の開設準備

平成31年1月31日にキャンパス建物が竣工し、2月15日に竣工式が行われました。高田学長（平成31年3月31日退任）はじめ関係者が出席し、建物の完成を祝いました。令和2年4月の開設に向けて、今後は物品の整備等を進めてまいります。

【所　在　地】埼玉県さいたま市中央区
（旧さいたま赤十字病院駐車場及び
さいたま赤十字看護専門学校寄宿舎敷地）
【敷地面積】約2,723㎡
【建　　物】鉄骨造地上4階建、延床面積約5,490㎡

さいたま看護学部令和2年4月開設予定（設置準備中）

■5年一貫制博士課程　共同災害看護学専攻（DNGL）の完成及び修了生の輩出

平成26年4月に開設した国公私立5大学（高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学の国公4大学に私学で唯一本学が参画）による5年一貫制博士課程である共同災害看護学専攻（DNGL）が完成年次となり、初めての修了生を輩出しました。

平成31年3月15日に本学を会場として「DNGL完成年次を祝う会」が開催され、修了生ほか各大学の関係者が出席しました。当日は本学1人を含む4人の修了生による学位論文発表の後、修講式が行われ、和やかな雰囲気で終了しました。なお、当日の模様はテレビ会議システムで5大学に同時配信され、完成の喜びを遠隔地でも分かち合いました。

DNGL修講式

■国際交流の推進

本学の特色であり教育目的のひとつである、国際的に活躍できる人材育成の基盤を強化するため、米国の2大学と新たにMOU（大学間の国際交流協定、Memorandum of Understanding）を締結しました。

平成30年6月にセントアンソニー看護大学と教育・看護研究における相互協力促進に関する協定を、7月にグランバレー州立大学カーフホフ看護学部と国際化・文化交流促進に関する協定をそれぞれ締結し、7月には本学教員3人が訪米し、両校教員との文化・学術交流を深めました。

また、7月9日には本学名誉博士・客員教授であるマルガレータ・ワルストロム氏（スウェーデン赤十字社社長）による特別講義が行われ、多数の学生、教職員が参加しました。講義後のディスカッションでは、学生との活発な意見交換がなされました。

グランバレー州立大学カーフホフ看護学部とMOU締結

■「自ら考え行動する」本学学生の活動

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成を目的とするプレイベントとして、平成30年8月に国連大学で渋谷区文化プログラム（MERRY SMILE SHIBUYA for 2020）が開催され、本学SKV（災害救護ボランティアサークル）の学生が、渋谷区内の他大学とともに参加し、舞台上で救急法のデモンストレーションなど本学の特色を生かした情報発信を行いました。

救急法のデモンストレーションを行う学生

また、9月1日（防災の日）から2日にかけて代々木公園で行われた渋谷区「防災フェス2018」にも参加し、テントブースで三角巾の使い方などの救急法体験コーナーを設け、多くの来場者に技術を伝え、教員もトークイベント「お母さん目線の役立つ防災対策」で会場を盛り上げました。

救急法体験コーナー

■教育研究環境の整備・充実

本学保護者会の支援を受け、図書館前ホールの学習スペースを改修し、より学生が快適に学習できる環境整備を行いました。また、学内のアメニティ充実としてトイレ設備の充実、事故防止・安全確保のため防犯カメラの増設等を行いました。

改修された学習スペース

■広報の強化・推進（看護学の発信）

本学では平成30年度から広報担当職員を増員し、積極的なインスタグラムやツイッター等のソーシャルメディアの活用による情報発信を開始しました。

積極的な情報発信が実を結び、NHKからの取材依頼を受け、ゴールデンタイムの全国番組で本学が大切にしている看護ケアについて放送されました。このことは看護そのものの奥深さを世の中に発信するとともに、本学の看護学教育の理念を広く伝えることにつながりました。

【番 組 名】探検バクモン（NHK総合）
「看護師さんの心 ご存じですか？」

【放送日時】平成30年11月14日（水）
20時15分～20時43分

地球に寄り添う看護

日本赤十字豊田看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0565-36-5111　住　所　愛知県豊田市白山町七曲12-33

学長
鎌倉 やよい

本学は、昭和16年に遡る長い歴史の中で、平成30年度に開学15年目を迎えました。人道を基盤とした赤十字の思想を涵養する理念のもと、看護学基礎教育、大学院では高度な看護実践能力並びに研究・教育能力を育成する教育を提供してきました。

本学は日本赤十字学園第二次中期計画（平成26～30年度）のもと、平成30年度計画を立案し、学長の将来ヴィジョンとして、教学マネジメント力・教育力・研究力の育成を基盤とした6項目（災害支援、地域連携、国際交流、赤十字資料室活用、学生支援、職場環境調整）に基づく施策を実施しました。

その結果、大学院のカリキュラムを改正し、新制度による専門看護師コース（小児看護、精神看護）、認定看護管理者コースを設置しました。また、私立大学等改革総合支援事業「タイプ1：教育の質的転換」「タイプ5：プラットフォーム形成」に採択されました。また、愛知県立豊田高校との高大連携事業の開始、本学大学生協の開設、ヘルスプロモーションセンター事業の拡大、裁量労働制の導入など、第二次中期計画に掲げた目標は概ね達成されました。

■教育の質保証

修士課程のカリキュラムを見直し、専門分野・領域構成を刷新した教育課程を平成31年4月から開始します。新カリキュラムの専門看護師コースは38単位の高度実践看護師教育課程として日本看護系大学協議会の認定を受けました。新設した認定看護管理者コースでは卓越した見識と管理能力を備えた人材の育成を目指します。

学部では、ワーキンググループを立ち上げ、現行のカリキュラム内容の課題を検討したうえで、令和2年度カリキュラム改正に向けて申請準備に取り組んでいます。

高度実践看護師教育課程
（専門看護師）
認定証

日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科
学長 鎌倉 やよい 様

貴大学院の申請による日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科看護学専攻ケア創生看護学小児看護学領域専門看護師コースを、小児看護分野の高度実践看護師教育課程（専門看護師 38 単位）として認定し、この証を交付します。

2019年2月28日

一般社団法人
日本看護系大学協議会
代表理事 上泉 和子

高度実践看護師教育課程
（専門看護師）
認定証

日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科
学長 鎌倉 やよい 様

貴大学院の申請による日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科看護学専攻地域共生看護学精神看護学領域専門看護師コースを、精神看護分野の高度実践看護師教育課程（専門看護師 38 単位）として認定し、この証を交付します。

2019年2月28日

一般社団法人
日本看護系大学協議会
代表理事 上泉 和子

認定書

■学生支援

平成29年12月15日に日本赤十字豊田看護大学生活協同組合が設立され、食育を中心とした学生の健康管理及び福利厚生の向上を図ることを目的に食堂と売店の営業を平成30年4月2日に開始しました。

食堂は以前の食券販売機での食券購入方式から、学生が利用しやすい「キャンパスペイ（学生証キャッシュレス機能）」方式に変更しました。また、売店では食品や文房具類の他、専門図書や実習関連品を揃えました。

今後は、学生生活への更なる福利厚生サービス向上を目指して、学生の意見を取り入れながら安定的な運営を目指します。

オープニングセレモニーの様子

■赤十字の特色ある教育の実施

平成30年12月6日、7日に救護班要員養成研修が本学を訓練会場として実施されました。この研修は、災害発生時に救護に当たる愛知県内の日本赤十字社関連施設の救護班研修の一環として行われ、知識と技術の両面から赤十字の救護を習得することを目的とし、毎年実施しています。

学生は「災害救護演習」の授業として訓練に参加し、それぞれ傷病者や家族、ボランティア役として災害時の医療や現場の雰囲気や救護の状況を見学・体験しました。参加した学生は、積極的に質問を行い、赤十字の災害救護活動について理解を深めました。

救護班要員養成研修

■入試改革

令和3年度入試に向けて、本学入学者選抜における選抜方法を公表したほか、令和3年度入試改革に向けて「日本赤十字社中部各県支部長推薦入学試験」から「赤十字特別推薦選抜」に変更する準備として、中部各県支部と合意書を締結しました。また、令和2年度入試よりインターネット出願（Web出願）を開始する準備を行いました。

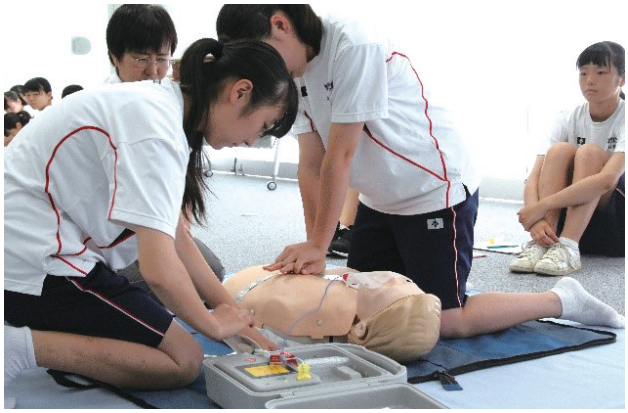
■私立大学等改革総合支援事業の推進

私立大学等改革総合支援事業である、全学的な体制での教育の質的向上に向けた取組みを支援する「教育の質的転換（タイプ1）」及び各大学等の特色化・資源集中を促し、複数大学間の連携、自治体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通した大学改革の推進を支援する「プラットフォーム形成（タイプ5）」に申請し、両タイプが採択されました。

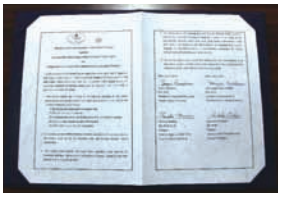
■地域・他大学との連携

平成30年度に愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したため、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の教育充実と相互の教育・研究活動を活性化することを目的として、平成30年8月20日～22日に本学において「健康生活支援演習」の授業を行いました。

また、「日赤豊田学生つばめ隊」が大学近隣の区民会館等で摂食嚥下障害予防体操「つばめ体操」の普及活動を行っているほか、尾張旭市から委託を受け、高齢者の摂食嚥下障害予防事業として「つばめ教室」を開催しました。さらに平成30年度から専門職向け研修会の開催をスタートしました。


救急法を学ぶ高校生

■国際交流


協定書

平成30年7月2日にタイ赤十字看護大学（Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing）と大学間の国際交流協定（Memorandum of Understanding：MOU）を締結しました。12月には、タイ赤十字看護大学から2人の学生を受け入れ、滞在期間中、赤十字関連施設の見学や「Thai&Japanese Afternoon」を企画し、本学学生と相互交流を行いました。今後は両大学の発展に向けてさらに学術交流を深めていく予定です。

習字を学ぶタイ赤十字看護大学の学生

赤十字の理念のもと、看護の知恵と心と技を育みます

日本赤十字広島看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0829-20-2800　住　所　広島県廿日市市阿品台東1-2

学長
小山 眞理子

平成30年度の大きな出来事として平成30年7月豪雨災害があげられます。7月5日からの雨は、6日夜には大雨特別警報が発令され、広島県内各地で大規模災害が発生しました。本学は、6日の4時限目から休講とし、7日早朝から学生の安否確認を開始しました。さらに交通遮断等による通学困難者に講義を録画し、自宅等で学習できるようにビデオオンデマンド（VOD）で配信しました。

教育では、グローバル化に対応することに加えて、時代のニーズに応じた教育への転換・充実に向け、カリキュラム改正プロジェクトチームを設置しました。今後は、プロジェクトチームによる調査の結果や寄せられた意見を集約し、新カリキュラム策定に向け、作業を本格化していきます。

研究では、全教員参加の研究関連のＦＤにより研究力向上を図っており、全教員の科研申請を目標に取り組むこととしています。

地域貢献としては、平成30年7月豪雨災害時に、教員がボランティアセンターで住民やボランティアの健康管理を行いました。引き続き、公開講座や自治体行事への参画、被災者支援等を行い地域に貢献してまいります。

■赤十字の特色を生かした教育プログラム

広島県総合防災訓練は年に1度開催され、国や県をはじめ消防・警察・自衛隊・日赤から約1,000人が一体となって行われています。学生や教職員の危機管理意識は非常に高く、この訓練では国際救援コースの学生9人が休日にもかかわらず参加しました。また平成30年度は日本赤十字社広島県支部の救護員実践研修を本学で実施しました。2、4年生の学生が多数参加し、体育館では実際の仮設救護所や避難所を想定し、学生自ら傷病者役になるなど、病院や支部の職員、赤十字ボランティアを中心とする救護員と一体となった訓練を実施することができました。

訓練に参加した学生

■国際交流（グローバル化）の推進①

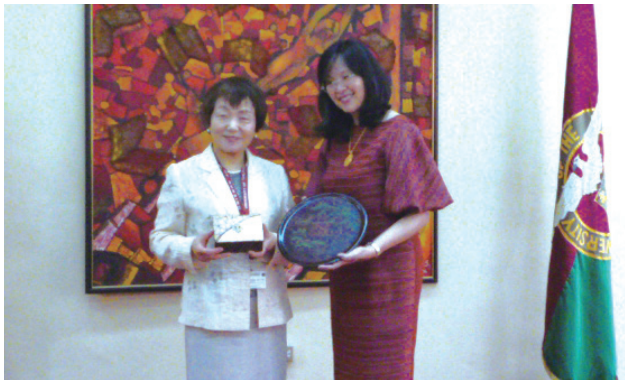
平成30年10月中旬から11月初旬までの約3週間、ラ・ソース大学（スイス）の学生2人の留学を受け入れました。

留学生は大学での授業や実習に参加し、母性看護学、災害看護学、地域活動、日本の医療制度などについて学びました。そして、日本赤十字社の活動（医療事業、血液事業、国内災害救護、国際活動など）、HICAREプロジェクト（放射線被曝者医療国際協力推進協議会）、日本の伝統文化、平和への願いに対する広島の取組みについて学ぶなど、数多くの留学プログラムに参加しました。

ラ･ソース大学からの留学生との交流

■国際交流(グローバル化)の推進②

平成31年3月にフィリピン大学マニラ校との間に「教育、科学研究、学術交流に関する協定」(AGREEMENT FOR EDUCATIONAL, SCIENTIFIC, RESEARCH AND SCHOLARLY EXCHANGES)を締結しました。これにより、今まで行ってきた本学学生の派遣だけでなく、両大学共同研究の実施、セミナー、会議、講演会、学術集会への参加も期待されます。



フィリピン大学マニラ校との協定

■実践力を養成する看護教育(アセスメントテストの充実)

看護実践能力の修得と自己の課題を明確にするため、地域の方々による模擬患者の協力を得ながら、客観的臨床能力試験OSCE(Objective Structured Clinical Examination)を実施しています。平成30年度は模擬患者の皆さんと学生との意見交換を行い、より実践に近づいた実習を行えるように研修会も行いました。また、看護実践能力に必要な知識等が一定基準に達しているかを評価するCBT(Computer Based Test)を全学年で実施しました。

模擬患者との意見交換

■大学院看護学研究科修士課程高度実践看護師教育課程(38単位)の実施

大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)では、平成30年度より専門看護師コースの小児看護学分野、がん看護学分野、精神看護学分野、災害看護学分野が高度実践看護師教育課程(38単位)としての、新カリキュラムでの講義を開始しました。

また、平成30年度専門看護師認定審査では、本学修了生3人が合格して、これまで本学から誕生した専門看護師は4分野16人となり、各地の臨床現場で活躍しています。

高度実践看護師教育課程

■認定看護師教育課程(摂食・嚥下障害看護)

摂食・嚥下障害看護分野の認定看護師教育課程は、平成30年度は28人が課程を修了し、平成21年度の開講以来計259人の修了生を輩出しました。修了生は、嚥下障害のある人々の食支援や誤嚥性肺炎予防等に関して、高度実践力をもって全国で活躍しています。

食支援の実践演習

■地域貢献の推進

生涯学習フェスティバル

地域貢献は本学の柱のひとつであり、専門職や地域住民対象の公開講座、各種イベント参加を通じて大学の知見の地域還元活動を継続しています。これらの活動は、文部科学省の私立大学等改革総合支援事業(タイプ2:地域発展)として評価されています。

平成30年度は公開講座等の総事業41件と対前年3件増となり、参加者は延べ2,000人を超え、「介護」や「防災」といったテーマでの公開講座は大きな好評を得ることができました。

ひとりを看る目、その目を世界へ

日本赤十字九州国際看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0940-35-7001　住　所　福岡県宗像市アスティ1-1

学長
田村 やよひ

平成13年の開学以来、本学は1，600人を超える卒業生を輩出し、卒業生たちは九州をはじめ全国の赤十字病院等で活躍しています。その教育課程は、赤十字の「人道」の理念を基盤としており、学修を通して、最新の看護学の知識や技術と看護職者としてふさわしい価値観、態度を身につけ、豊かな人間性を涵養しています。

大学名に「国際」が付されている本学は、国際看護実践研究センターを中心とし、新たにラ・ソース大学（スイス）との国際交流協定を締結したほか、H.E.L.P in JAPAN2018の開催、国際協力機構（JICA）事業の受託、さらには、「国際コース」を設置し、授業科目「国際保健・看護」では国際交流協定校へ学生の派遣を行うなど、今日のグローバル社会を見通し、海外でも活躍できる看護職の育成にも力を入れました。

大学院では平成28年度に日本赤十字学園の5つの大学と共同して開設した大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程が完成年次を迎えたほか、平成29年度に開設した大学院看護学研究科修士課程CNSコースから新たに修了生を輩出し、質の高い教育・研究を実践しました。

■学部科目での避難所訓練

本学では、学部必修科目「災害と看護」の演習として避難所訓練を行っています。

訓練は大規模災害が発生した場合の本学での被災者の受入れを想定したものであり、被災者役と看護師役の学生に分かれ、被災者役の学生は年齢や性別、疾患、社会的な背景などの設定、看護師役の学生は被災者の受入れと情報収集、物資の配給、被災者ニーズの把握、赤十字救急法の三角巾を用いた包帯法やトリアージ、日本赤十字社福岡県支部との連携など、避難所の運営、救護方法について学びました。

避難所訓練の様子

■フローレンス・ナイチンゲール記章受章記念講演会の開催

学生確保の取組みの一環として、第46回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章された名古屋第二赤十字病院 副院長兼看護部長である伊藤明子氏（本学大学院修士課程一期生）を招聘し、福岡市内で記念講演会を開催しました。講演では「赤十字看護師としての救援活動と自身の歩み」と題して、学生時代から臨床を経て世界各地の紛争地域での活動や看護教育に携わった経験など、赤十字の人道の理念がどのような活動につながっているのかのお話しがありました。

講演会には看護師を目指す高校生など155人が参加し、フリーディスカッションでは活発な質疑応答が行われました。

フローレンス・ナイチンゲール記章受章記念講演会

■優秀な学生確保と学生支援

平成30年度入試から、学部一般入試科目を4科目から3科目へと変更しましたが、さらに指定校推薦制度を導入しました。また、学生支援の一環として、給付型奨学金の支給開始、AA（アカデミック・アドバイザー）制度を導入しました。AA制度は、異学年間を含めた主に生活に関する相互支援の強化、個々の学生に対する大学からの支援の充実、さらにポータルを活用したきめ細かな支援という目的で開始し、各学年3〜5人ずつの計30ゼミで構成しています。

■大学発信型の災害看護対応システム構築に向けて

本学では平成28年度から「九州における大学発信型の災害看護対応システムの構築」を研究テーマとした地域貢献できる仕組み作りに段階的に取り組んでいます。

平成30年度は「いざという時に動けるワタシになるために」の2回シリーズの研修会を秋に行い、延べ90人の看護職者が参加しました。また3月には地域参加型キックオフシンポジウムを開催し、地域コミュニティや大学の災害に対する取組みを紹介し、災害時に必要な自助・共助・公助に役立てるとともに、顔の見える関係づくりを構築しました。このシンポジウムには地域住民、行政及び学生など64人が参加しました。

シンポジウムで発表する学生

■看護継続教育センター研修会における テーマ別研修会の取組み

看護継続教育センターではこれまで208人の救急看護認定看護師を輩出してきました。平成29年度から大学院修士課程において、クリティカルケア専門看護師課程を開設したことにより、同課程を休講とし、Off-JT（職場外研修）として看護職者への継続教育へと移行しました。

昨年度実施したニーズ調査をもとに、本年度は「認知症高齢者の気づきと対処」「スタッフ育成に活用するコーチングの知識と実践テーマ」「災害への備え」をテーマに9つの研修会を実施し、212人の医療従事者が受講しました。

研修会の様子

■地域貢献

地域連携室では、本学が主体となって行う地域連携活動、地域コミュニティとの連携事業や行政主催の行事への参加について、中心となって活動しています。平成30年度は学生による登録制の地域連携ボランティア団体をつくり、公開講座やイベントへの参加、地域コミュニティでの健康測定会等、11の事業を通して、多くの学生が地域との交流を図ることができました。

「むなかた子どもまつり」でキッズナース服の試着

H.E.L.P in JAPAN2018

■H.E.L.P in JAPAN2018の開催

日本赤十字社、ICRC（赤十字国際委員会）、WHO（世界保健機関）と共同で開催する人道研修「H.E.L.P（Health Emergencies in Large Populations）in JAPAN」を平成30年9月から10月にかけた2週間で開催しました。緊急時に行われる人道支援の専門性を高め、保健介入について管理能力を身に付けるため、9か国22人の研修生が参加しました。

学生の動向

1 入学者の状況（平成30年5月1日現在）

平成30年度の学部入学者は6大学で770人となりました。例年入学者の確保が厳しい状況にある介護福祉学科は、平成30年度から入学定員を50人から30人に変更し、入学者は19人となりました。

また、大学院の入学者は修士課程83人、博士課程24人となりました。

（単位：人）

学校名	学部			大学院				
	入学定員	合格者	入学者	課程	専攻	入学定員	合格者	入学者
日本赤十字北海道看護大学	100	170	108	修士課程	看護学	16	8	8
				博士課程	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字秋田看護大学	100	152	114	修士課程	看護学	12	8	6
				博士課程	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字看護大学	130	301	146	修士課程	看護学	30	30	30
					国際保健助産学	15	16	15
				博士課程	看護学 ※1	8	12	12
					共同災害看護学 ※2	2	2	2
日本赤十字豊田看護大学	120	323	134	修士課程	看護学	10	8	8
				博士課程	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字広島看護大学	125	314	167	修士課程	看護学	10	9	8
				博士課程	共同看護学 ※1	2	2	2
日本赤十字九州国際看護大学	100	202	101	修士課程	看護学	10	8	8
				博士課程	共同看護学 ※1	2	2	2
学部合計	675	1,462	770	修士課程	看護学	88	71	68
					国際保健助産学	15	16	15
					合計	103	87	83
				博士課程	共同看護学 ※1	10	10	10
	（参考）3年次編入 日本赤十字看護大学				看護学 ※1	8	12	12
					共同災害看護学 ※2	2	2	2
	10	9	8		合計	20	24	24

大学はすべて看護学部、大学院はすべて看護学研究科
※1 博士後期課程　※2 5年一貫制博士課程

（単位：人）

学校名	介護福祉学科		
	入学定員	合格者	入学者
日本赤十字秋田短期大学	30	21	19

2 在学生の状況（平成30年5月1日現在）

平成30年度の学部在学生は6大学で3,055人となりました。また、大学院の在学生は修士課程208人、博士課程98人となり、短期大学介護福祉学科では40人となりました。

（単位：人）

学校名	学部		大学院			
	収容定員	在学生	課程	専攻	収容定員	在学生
日本赤十字北海道看護大学	400	441	修士課程	看護学	32	29
			博士課程	共同看護学 ※1	6	9
日本赤十字秋田看護大学	400	445	修士課程	看護学	24	21
			博士課程	共同看護学 ※1	6	7
日本赤十字看護大学	540	601	修士課程	看護学	60	64
				国際保健助産学	30	31
（うち3年次編入）	20	17	博士課程	看護学 ※1	21	50
				共同災害看護学 ※2	10	10
日本赤十字豊田看護大学	480	538	修士課程	看護学	20	21
			博士課程	共同看護学 ※1	6	7
日本赤十字広島看護大学	500	584	修士課程	看護学	20	20
			博士課程	共同看護学 ※1	6	9
日本赤十字九州国際看護大学	400	446	修士課程	看護学	20	22
			博士課程	共同看護学 ※1	6	6
学部合計	2,720	3,055	修士課程	看護学	176	177
				国際保健助産学	30	31
				合計	206	208
			博士課程	共同看護学 ※1	30	38
				看護学 ※1	21	50
				共同災害看護学 ※2	10	10
（うち3年次編入）	20	17		合計	61	98

大学はすべて看護学部、大学院はすべて看護学研究科
※1 博士後期課程　※2 5年一貫制博士課程

（単位：人）

学校名	介護福祉学科	
	収容定員	在学生
日本赤十字秋田短期大学	80	40

3 卒業生の進路状況（平成31年4月1日現在）

平成30年度の学部の卒業生は738人であり、そのうち457人（61.9%）が赤十字病院に就職しました。また、修士課程の修了者83人のうち32人（38.5%）が赤十字病院・赤十字関係教育機関等に、博士課程の修了者15人のうち、7人（46.6%）が赤十字病院・赤十字関係教育機関等に就職しました。なお、学部卒業生のうち半数以上の394人（53.3%）が赤十字奨学金を受給しています。

【看護学部】

（単位：人）

学校名	卒業者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字以外の病院	その他（行政等）	進学（専門学校を含む）	就職・進学以外の進路	進路未定者
日本赤十字北海道看護大学	101	95	70	69.3%	23	2	4	0	2
（うち赤十字奨学生）	75	71	70		1	0	2	0	2
日本赤十字秋田看護大学	109	103	42	38.5%	58	3	5	1	0
（うち赤十字奨学生）	30	30	30		0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学	154	145	103	66.9%	38	4	7	2	0
（うち赤十字奨学生）	100	96	96		0	0	2	2	0
日本赤十字豊田看護大学	135	132	107	79.3%	24	1	2	1	0
（うち赤十字奨学生）	101	101	101		0	0	0	0	0
日本赤十字広島看護大学	135	129	76	56.3%	46	7	1	5	0
（うち赤十字奨学生）	54	49	48		0	1	0	5	0
日本赤十字九州国際看護大学	104	96	59	56.7%	37	0	7	0	1
（うち赤十字奨学生）	34	34	31		3	0	0	0	0
合計	738	700	457	61.9%	226	17	26	9	3
うち赤十字奨学生合計	394	381	376	95.4%	4	1	4	7	2

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

【短期大学　介護福祉学科】

（単位：人）

学校名	卒業者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字社会福祉施設等	赤十字以外の医療施設	赤十字以外の社会福祉施設等	その他	進学	就職・進学以外の進路	進路未定者
日本赤十字秋田短期大学	21	20	0	0.0%	0	1	19	0	0	0	1
（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

【大学院】

(修士課程)

（単位：人）

学校名	修了者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 医療機関 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字以外の病院	その他（行政・教育施設等） 赤十字関係	赤十字以外	進学者 赤十字関係	赤十字以外	進路未定者（就職・進学以外の進路含む）
日本赤十字北海道看護大学	13	13	7	53.8%	5	0	1	0	0	0
（うち赤十字奨学生）	2	2	2		0	0	0	0	0	0
日本赤十字秋田看護大学	9	9	3	33.3%	5	1	0	0	0	0
（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字看護大学	46	44	9	19.6%	27	7	1	1	1	0
（うち赤十字奨学生）	2	2	2		0	0	0	0	0	0
日本赤十字豊田看護大学	4	3	1	25.0%	1	0	1	0	0	1
（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字広島看護大学	2	2	2	100.0%	0	0	0	0	0	0
（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学	9	9	1	11.1%	5	1	2	0	0	0
（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
合計	83	80	23	27.7%	43	9	5	1	1	1
うち赤十字奨学生合計	4	4	4	100.0%	0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

(博士課程)

（単位：人）

	学校名	修了者数	就職（内定を含む） 合計	内訳 医療機関 赤十字病院（%は対卒業者数）		赤十字以外の病院	その他（行政・教育施設等） 赤十字関係	赤十字以外	進学者 赤十字関係	赤十字以外	進路未定者（就職・進学以外の進路含む）
博士後期課程	日本赤十字北海道看護大学	1	1	0	0.0%	0	1	0	0	0	0
	（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	日本赤十字看護大学	12	11	0	0.0%	1	5	5	0	0	1
	（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	日本赤十字九州国際看護大学	1	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	1
	（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	小計	14	12	0	0.0%	1	6	5	0	0	2
	うち赤十字奨学生合計	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0
5年一貫制博士課程	日本赤十字看護大学	1	1	1	100.0	0	0	0	0	0	0
	（うち赤十字奨学生）	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	小計	1	1	1	100.0%	0	0	0	0	0	0
	うち赤十字奨学生合計	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0
合計		15	13	1	6.7%	1	6	5	0	0	2
	うち赤十字奨学生合計	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

4 国家試験の合格状況（平成31年3月22日発表）

看護師国家試験の新卒者合格率は、6看護大学平均で98.8%であり、合格率100%を目指し、引き続き教育・指導を強化することとしています。

助産師国家試験、保健師国家試験の新卒者合格率はそれぞれ100%、93.2%、また、介護福祉士国家試験の新卒者合格率は100%となりました。

●第108回看護師国家試験

（単位：人）

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	103	100	97.1%	101	99	98.0%	2	1	50.0%
日本赤十字秋田看護大学	111	111	100.0%	109	109	100.0%	2	2	100.0%
日本赤十字看護大学	146	143	97.9%	145	143	98.6%	1	0	0.0%
日本赤十字豊田看護大学	138	135	97.8%	135	134	99.3%	3	1	33.3%
日本赤十字広島看護大学	140	134	95.7%	135	132	97.8%	5	2	40.0%
日本赤十字九州国際看護大学	108	104	96.3%	103	102	99.0%	5	2	40.0%
合計	**746**	**727**	**97.5%**	**728**	**719**	**98.8%**	**18**	**8**	**44.4%**

●第102回助産師国家試験

（単位：人）

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学大学院	5	5	100.0%	5	5	100.0%	0	0	該当なし
日本赤十字秋田看護大学大学院	5	5	100.0%	5	5	100.0%	0	0	該当なし
日本赤十字看護大学大学院	15	15	100.0%	14	14	100.0%	1	1	100.0%
日本赤十字九州国際看護大学大学院	4	4	100.0%	4	4	100.0%	0	0	該当なし
計（大学院）	**29**	**29**	**100.0%**	**28**	**28**	**100.0%**	**1**	**1**	**100.0%**
日本赤十字広島看護大学（学部）	11	11	100.0%	11	11	100.0%	0	0	該当なし
合計	**40**	**40**	**100.0%**	**39**	**39**	**100.0%**	**1**	**1**	**100.0%**

●第104回保健師国家試験

（単位：人）

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	16	14	87.5%	15	14	93.3%	1	0	0.0%
日本赤十字秋田看護大学	55	42	76.4%	50	41	82.0%	5	1	20.0%
日本赤十字看護大学	21	21	100.0%	20	20	100.0%	1	1	100.0%
日本赤十字豊田看護大学	22	22	100.0%	22	22	100.0%	0	0	該当なし
日本赤十字広島看護大学	32	30	93.8%	30	30	100.0%	2	0	0.0%
日本赤十字九州国際看護大学	13	12	92.3%	10	10	100.0%	3	2	66.7%
合計	**159**	**141**	**88.7%**	**147**	**137**	**93.2%**	**12**	**4**	**33.3%**

●第31回介護福祉士国家試験（新卒）

（単位：人）

学校名	受験者	合格者	合格率
日本赤十字秋田短期大学	20	20	100.0%

教育活動の動向

各大学において学生のニーズに配慮した質の高い教育・研究への取組みを実施しております。また、日本赤十字秋田短期大学では医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

1 遠隔教育システムを用いた連携

遠隔教育システムを活用し、平成26年度から日本赤十字看護大学が他の国公立の4大学と連携した「5年一貫制博士課程 共同災害看護学専攻」を開設し、災害看護のグローバルリーダーの養成を開始しています。

平成28年度から、当学園専用の光回線で結ぶ遠隔教育システムを用いて、北海道、秋田、豊田、広島、九州の5看護大学で「大学院看護学研究科共同看護学専攻（博士後期課程）」を開始し、これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を1つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者、実践者の養成を目指しています。

なお、平成29年度から遠隔教育システムの追加整備（各大学2台目の設置・本システム管理ツールの導入等）を実施しました。

2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では臨地実習科目の約7割、多い大学では8割を日本赤十字社の医療施設と連携して行っています。赤十字病院は看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が師長で9割強、係長で5割近くおり、質の高い臨地実習環境が提供されています。

3 大学院における専門看護師（CNS）教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上を図ることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、当学園の全6看護大学大学院において、専門看護師教育課程を開設しています。

平成30年度は、6看護大学で合計15人が同教育課程を修了しました。

なお、当専門看護師教育課程は少子高齢社会や医師不足を背景に、これまでにない看護への社会からの期待の高まりを受け、令和2年度限りで26単位教育が終了し、すべて38単位専門看護師教育課程に移行することとなっています。

4 認定看護管理者（CNA）教育課程

当学園内2看護大学大学院（日看大・広島）では、認定看護管理者の認定審査を受験できるコース等を設置して資格取得に向けた教育を行っており、平成30年度は4人が同コース等を修了しました。

注）CNA：Certified Nurse Administrator

5 認定看護師（CN）教育課程

社会のニーズに対応した、より質の高い看護実践を提供できる看護師を育成するために、平成30年度は日本赤十字広島看護大学において認定看護師教育課程を開講し、合計28人が同課程を修了しました。

●専門看護師（CNS）教育課程を設置する大学

（単位：人）

学　校　名	教育課程名	日本看護系大学協議会認定単位	修了者数
日本赤十字北海道看護大学大学院	がん看護	26	0
	慢性看護	26	2
	精神看護	26	0
日本赤十字秋田看護大学大学院	がん看護	38	0
日本赤十字看護大学大学院	がん看護	38	2
	小児看護	38	1
	慢性看護	38	2
	クリティカルケア看護	38	3
	老年看護	38	1
	精神看護	38	0
	在宅看護	38	1
	災害看護	38	1
日本赤十字豊田看護大学大学院	母性看護	26	0
	精神看護	26	0
	小児看護	26	0
日本赤十字広島看護大学大学院	がん看護	26	0
		38	0
	小児看護	26	0
		38	0
	精神看護	26	0
		38	0
	災害看護	26	0
		38	0
日本赤十字九州国際看護大学院	クリティカルケア看護	38	1
	在宅看護	38	1
合　　計		—	15

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置
注）CNS: Certified Nurse Specialist

●認定看護管理者（CNA）認定審査の受験資格が取得可能な大学

（単位：人）

学　校　名	領域・分野	修了者数
日本赤十字看護大学大学院	看護管理学領域	3
日本赤十字広島看護大学大学院	看護教育・管理学分野（教育・研究者コース）	1
合　　計	—	4

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置
注）CNA: Certified Nurse Administrator

●認定看護師（CN）教育課程を開設する大学

（単位：人）

学　校　名	教育課程名	修了者数
日本赤十字広島看護大学（ヒューマンケアリングセンター）	摂食・嚥下障害看護	28

※休講中の課程は除く
注）CN: Certified Nurse

研究活動の動向

当学園が設置する6看護大学・1短期大学では、災害・国際看護などの看護学や介護に関する研究、看護教育に関する研究、赤十字に関する研究など、各教員の専門性を活かした研究への取組みが行われました。

1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として12件の応募があり、11件を採択しました。平成29年度からの継続研究1件及び平成29年度からの持ち越し事業1件を合わせ、合計13件の研究助成を決定し、15,667千円を交付しました。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」による支援については、11件の応募があり、8件を採択（その後、科研費採択による辞退1件）しました。平成29年度からの継続研究2件を合わせ、合計9件の研究助成を決定し、約4,255千円を交付しました。

●平成30年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況

【新規】

学　校　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字北海道看護大学	共同教育課程でのテレビ会議システムおよびインターネットを介した遠隔授業・個別指導の教育効果に関する基礎的研究	H30
日本赤十字看護大学	原発災害により長期避難した住民への健康支援活動に携わった看護師の体験	H30 ～ H31
	赤十字の国際活動を行う看護師育成－国際ラダーの評価と活用の実態	H30 ～ H31
	大学院におけるクリニカル・ナース・リーダー（CNL）養成プログラムの導入の検討	H30 ～ H31
	実習指導者研修会を受講した看護師の実習指導者としての成長	H30 ～ H31
	看護部の理念を具現化する「セルフケア支援」を行う看護師を育成するプロジェクトの検討	H30 ～ H31
	自然の回復過程を整える「熱布パックケア」普及プロジェクト	H30 ～ H31
日本赤十字豊田看護大学	表情看護学という新たな学問の構築を目指した基礎研究	H30 ～ H31
日本赤十字広島看護大学	Appreciative Inquiry を活用した中堅看護職のリーダーシップ能力開発プログラムの検討	H30 ～ H31
	摂食・嚥下障害看護認定看護師による観察の技とその臨床知	H29 ～ H30
日本赤十字九州国際看護大学	中小規模病院における看護記録の質改善を目指した記録委員会への活動支援	H30 ～ H31
5 大学 11 件		

【継続】

学　校　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字九州国際看護大学	健康意識の向上と健康行動改善のための教育ツールの導入と人材育成に関わる研究―東南アジアの中進国におけるヘルス・プロモーション教育支援の試み―	H29 ～ H30
1 大学 1 件		

【平成29年度事業のうち平成30年度へ持ち越した事業】

学　校　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字九州国際看護大学	九州における大学発信型の災害看護対応システムの構築―過去の体験から学ぶ災害看護教育に焦点をあてて―	H29 ～ H30
1 大学 1 件		

●平成３０年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」による研究支援事業の状況

【新規】

学　校　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	地域住民の自殺予防に関連する知識・行動上の変化ー介入前後約５年の比較からー	H30 ～ H31
	農村地域高齢者の社会的相互扶助に根ざした農村地域型保健活動指標の開発と検証ー農村における保健師活動と地域づくりー	H30 ～ H31
	在宅への移行を見据えた病棟看護と多職種連携実践能力関連－２つの尺度を用いた関連検証を通してー	H30 ～ H31
	がん相談に携わる看護師の「がん就労者」の就労支援の構造とプロセスー包括的就労支援における看護師の役割に焦点を当ててー	H30 ～ H31
	高齢者および家族が退院後の療養生活を決定していく意思決定過程の構造	H30 ～ H31
日本赤十字看護大学	ウガンダ共和国都市部の学童肥満関連要因の協働研究	H30
日本赤十字九州国際看護大学	インドネシアにおけるキャリア開発ラダー導入による看護実践能力向上への効果と課題	H30
３大学７件		

【継続】

学　校　名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	若年性認知症者の受診から診断における外来受診時の看護師による外来支援システムの実態	H29 ～ H30
	北東北における虚血性心疾患手術後患者の復職における困難と対応ー循環器病棟看護師が行う復職支援を通してー	H29 ～ H30
１大学２件		

2　科研費等競争的外部資金の研究（平成30年10月1日現在）

各大学は、研究活動の活性化のため、科学研究費補助金等の競争的外部資金への積極的な応募を行いました。平成30年度は、6看護大学・1短期大学で合計126件（前年度120件）の新規応募を行い、33件（26.2%）が採択されています（前年度23件）。

助成金額のうち、「直接経費」の合計額は、111,436千円となっており、そのうち、「研究代表者」として獲得した金額は81,536千円（73.2%, 前年度69.0%）でありました。

●平成30年度科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

【大学別採択件数等】

（単位：件）

学　校　名	研究代表者				研　究 分担者
	新　規		継　続	合　計	
	申　請	採　択			
日本赤十字北海道看護大学	31	3	5	8	5
日本赤十字秋田看護大学	16	3	5	8	2
日本赤十字看護大学	25	11	10	21	11
日本赤十字豊田看護大学	23	7	11	18	12
日本赤十字広島看護大学	20	6	6	12	8
日本赤十字九州国際看護大学	11	3	8	11	5
日本赤十字秋田短期大学	0	0	1	1	1
合　　計	**126**	**33**	**46**	**79**	**44**

【大学別助成金額】

（単位：千円）

学　校　名	直接経費				間接経費	合　計
	研究代表者		研究分担者	小　計		
	新　規	継　続				
日本赤十字北海道看護大学	3,300	15,996	750	20,046	4,477	24,523
日本赤十字秋田看護大学	2,070	2,650	130	4,850	1,305	6,155
日本赤十字看護大学	12,700	10,300	26,165	49,165	7,576	56,741
日本赤十字豊田看護大学	7,200	9,400	1,125	17,725	5,318	23,043
日本赤十字広島看護大学	6,700	3,200	980	10,880	3,264	14,144
日本赤十字九州国際看護大学	2,200	5,400	700	8,300	2,490	10,790
日本赤十字秋田短期大学	0	420	50	470	141	611
合　　計	**34,170**	**47,366**	**29,900**	**111,436**	**24,571**	**136,007**

○継続研究には、他研究機関から当学園へ異動してきた者の継続研究も含む。　○赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学金基金にかかる教育・研究事業は除く。
○「研究分担者」とは、他の研究機関又は当学園他校の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。
○新規研究には、育児休暇取得に伴い補助金留保となっているものも含む。　○新規研究には、前所属施設で申請・採択されたものも含む。

奨学金の給付・貸与状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・病院、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構、自治体等の193機関から、全学生の68.9%である2,344人（実人数）〔延べ3,314人〕の学生が奨学金を受けました。（学部（科）の在学生の73.1%、大学院在学生の26.5%が受給）

そのうち、日本赤十字社各支部・病院からは、奨学金受給学生2,344人の約60.6%にあたる1,421人の学生に対して奨学金が支給されました。（学部（科）奨学生の62.6%、大学院奨学生の4.9%が受給）

6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は、24億5,400万円強であり、学部の奨学生（実人数）では一人あたり約105万円、大学院では約85万円となりました。

●赤十字奨学金の大学別受給状況（平成３０年度在学生の実績）

支部名		受給状況						医療施設名		受給状況					
		日本赤十字北海道看護大学	日本赤十字秋田看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	日本赤十字九州国際看護大学			日本赤十字北海道看護大学	日本赤十字秋田看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	日本赤十字九州国際看護大学
								1	日本赤十字社医療センター	○	○	○	○		
1	北海道	○			○			2	旭川赤十字病院	○					
								3	伊達赤十字病院	○					
								4	釧路赤十字病院	○					
								5	北見赤十字病院	○					
								6	栗山赤十字病院	○					
								7	浦河赤十字病院	○					
								8	小清水赤十字病院	○					
								9	置戸赤十字病院	○					
								10	函館赤十字病院	○	○		○		
								11	清水赤十字病院	○					
2	青森県		○					12	八戸赤十字病院		○				
3	岩手県							13	盛岡赤十字病院						
4	宮城県							14	仙台赤十字病院		○				
								15	石巻赤十字病院		○				
5	秋田県							16	秋田赤十字病院		○				
6	山形県		○					—	—						
7	福島県		○					17	福島赤十字病院			○			
8	茨城県			○				18	水戸赤十字病院		○				
								19	古河赤十字病院			○			
9	栃木県			○				20	芳賀赤十字病院			○			
								21	那須赤十字病院		○				
								22	足利赤十字病院						
10	群馬県			○	○			23	前橋赤十字病院				○		○
								24	原町赤十字病院						
11	埼玉県	○		○				25	さいたま赤十字病院	○		○			
								26	小川赤十字病院						
								27	深谷赤十字病院			○			
12	千葉県	○	○	○				28	成田赤十字病院	○	○	○			○
13	東京都	○			○			29	武蔵野赤十字病院	○		○	○	○	○
								30	大森赤十字病院	○	○	○			○
								31	葛飾赤十字産院			○			
14	神奈川県	○		○				32	横浜市立みなと赤十字病院		○	○		○	○
								33	秦野赤十字病院	○	○	○			
								34	相模原赤十字病院			○			
15	新潟県			○				35	長岡赤十字病院		○	○			
16	山梨県			○				36	山梨赤十字病院						
17	富山県				○			37	富山赤十字病院				○		
18	石川県				○			38	金沢赤十字病院				○		
19	福井県				○			39	福井赤十字病院				○		

支部名		受給状況						医療施設名		受給状況					
		日本赤十字北海道看護大学	日本赤十字秋田看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	日本赤十字九州国際看護大学			日本赤十字北海道看護大学	日本赤十字秋田看護大学	日本赤十字看護大学	日本赤十字豊田看護大学	日本赤十字広島看護大学	日本赤十字九州国際看護大学
20	長野県				○			40	長野赤十字病院				○		
								41	諏訪赤十字病院				○		
								42	安曇野赤十字病院				○		
								43	川西赤十字病院						
								44	下伊那赤十字病院						
								45	飯山赤十字病院				○		
21	岐阜県				○			46	高山赤十字病院				○		
								47	岐阜赤十字病院				○		
22	静岡県	○			○			48	静岡赤十字病院	○		○	○		○
								49	浜松赤十字病院				○	○	
								50	伊豆赤十字病院				○		
								51	引佐赤十字病院						
								52	裾野赤十字病院				○		
23	愛知県				○			53	名古屋第一赤十字病院				○		
								54	名古屋第二赤十字病院				○		○
24	三重県				○			55	伊勢赤十字病院			○	○		○
25	滋賀県				○			56	大津赤十字病院				○	○	○
								57	大津志賀赤十字病院						
								58	長浜赤十字病院						
26	京都府							59	京都第一赤十字病院					○	
								60	京都第二赤十字病院					○	
								61	舞鶴赤十字病院						
27	大阪府					○	○	62	大阪赤十字病院						
								63	高槻赤十字病院						
28	兵庫県						○	64	姫路赤十字病院					○	
								65	柏原赤十字病院						
								66	多可赤十字病院						
								67	神戸赤十字病院					○	
29	奈良県							—	—						
30	和歌山県							68	日本赤十字社和歌山医療センター					○	○
31	鳥取県							69	鳥取赤十字病院						
32	島根県					○		70	松江赤十字病院					○	
								71	益田赤十字病院					○	
33	岡山県							72	岡山赤十字病院					○	
34	広島県							73	広島赤十字・原爆病院					○	
								74	庄原赤十字病院					○	
								75	三原赤十字病院					○	
35	山口県					○	○	76	山口赤十字病院					○	
								77	小野田赤十字病院						
36	徳島県							78	徳島赤十字病院					○	○
37	香川県							79	高松赤十字病院					○	○
38	愛媛県							80	松山赤十字病院					○	
39	高知県							81	高知赤十字病院					○	
40	福岡県						○	82	福岡赤十字病院						○
								83	今津赤十字病院						
								84	嘉麻赤十字病院						○
41	佐賀県						○	85	唐津赤十字病院						
42	長崎県						○	86	日本赤十字社長崎原爆病院						
								87	日本赤十字社長崎原爆諫早病院						
43	熊本県						○	88	熊本赤十字病院						
44	大分県						○	89	大分赤十字病院						
45	宮崎県						○	—	—						
46	鹿児島県						○	90	鹿児島赤十字病院						○
47	沖縄県						○	91	沖縄赤十字病院						
合計		6	4	8	12	3	11	合計		17	13	16	21	20	15

※在学生が受給している奨学金がある場合に○を付している。

日本赤十字国際人道研究センターの動向

日本赤十字国際人道研究センター（英文名Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies）は、当学園が設置する6大学、1短期大学の教育研究の専門人材を活かした人道問題に関する学術的な拠点として、日本赤十字社の協力を得て、調査・研究事業等を実施することを目的に、平成23年4月、日本赤十字看護大学内に開設されました。

主な事業内容

- 国際赤十字（日本赤十字社を含む。以下同じ。）の歴史・史料に関する調査研究
- 国際赤十字の活動及び事業に関する調査研究
- 国際人道法の普及及び調査研究に必要な事業
- 国際赤十字関係機関・団体等との学術研究の連携・協力
- 看護大学・短期大学が行う調査研究の支援

平成30年度の研究活動

1 「人道研究ジャーナル」Vol.8の刊行

赤十字の歴史や人道問題を取り巻く諸課題について特集のうえ刊行しました。主な特集記事は、①赤十字社連盟創設100年、②死と向き合う支援、③火山噴火災害と救護、④中立と公平を巡って、など。

「人道研究ジャーナル」Vol.8

2 シンポジウムの開催

国際人道法講座
「人のいのちを守る赤十字の人道支援」を日本赤十字社大阪府支部と共催

日本赤十字社大阪府支部創設130周年を記念し、「府民のための国際人道法講座～人のいのちを守る赤十字の人道支援」を同支部と共催し、約160人が聴講しました。

当講座は2回にわたり開催し、第1回は平成30年10月20日、元国際赤十字・赤新月社連盟財政委員でヨルダン大使等を勤めた野々山忠致氏、国際救援の現場で活躍された大阪赤十字病院の渡瀬淳一郎医師に講演いただきました。

第2回は平成31年3月23日、日本赤十字社国際部長の田中康夫氏、赤十字国際委員会（ICRC）駐日事務所の眞壁仁美氏に講演いただきました。講座では当センター所長、副所長が交代で参加し、閉会の挨拶を行いました。なお、野々山氏の講演録は人道研究ジャーナルVol.8に掲載しております。

多くの参加者があった国際人道法講座

3 教育・啓発用資材の開発・製作

アンリー・デュナンの生涯と功績について触れ、その先駆的な発想と行動力を知ることで平和と人道を考える好著であるアンリー・デュナン研究所所長ピエール・ボワシエ著「アンリー・デュナン伝」の翻訳を刊行しました。(廣渡太郎日本赤十字秋田看護大学・短期大学教授 訳)

赤十字各施設や関係者向けに10,000部作成し、好評を得ました。

アンリー・デュナン伝

4 日本赤十字社の歴史史料調査・収集

1 戦時救護看護婦への聞き取り調査

第二次世界大戦中に中国・漢口等で戦時救護に携わった山形県在住の元日赤看護婦・永島としえ氏及び満州・シベリアで活動した広島県支部派遣のA氏(匿名希望)への聞き取り調査を研究員が行い、その内容を人道研究ジャーナルVol.8に掲載しました。

2 日本赤十字看護大学における歴史史料の展示

一般の方に赤十字と看護の歴史についてより広く知っていただくために、日本赤十字看護大学内にある展示コーナーの展示物の更新を行うほか、同大学所蔵の各界からの看護の歴史等に関する寄付物件記録のための図録用写真撮影等を行いました。

日本赤十字看護大学展示コーナー

5 研究員の海外調査・研究活動

1 研究員の派遣

オーストラリア赤十字社主催の国際人道法研修「人道支援従事者のための国際法的枠組み」(平成30年4月28日～5月4日開催)に齋藤彰彦研究員(日本赤十字社国際部)を派遣し、概要を人道研究ジャーナルVol.8に掲載しました。

オーストラリア赤十字社国際人道法研修

2 研究員の研究(研究内容は「人道研究ジャーナル」Vol.8に掲載)

◆「災害時のこころのケアの共通理解に向けて」
齋藤 和樹 研究員(日本赤十字秋田看護大学・短期大学准教授)

◆「看護基礎教育課程における災害看護教育の現状
～日本赤十字社看護基礎教育機関と設置主体の異なる看護基礎教育機関との比較」
佐藤 美佳 研究員(日本赤十字秋田看護大学・短期大学講師)

◆「赤十字と国連を比較してみえる公平と中立の現状」
河合 利修 客員研究員(日本大学教授)

◆「中立と公平をめぐる議論」
井上 忠男 所長(日本赤十字秋田看護大学特任教授)

◆「大阪府北部地震『災害ボランティアセンターへの運営支援活動』と関係団体との協力・連携・協働」
森　正尚 研究員(日本赤十字社大阪府支部青少年・ボランティア課長)

学校会計の決算状況を報告します

1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応する全ての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

1 資金収入の部

資金収入合計 14,770,686千円（前年度比 210,819千円 減）

資金収入合計で、**減額**となりました。

（単位：千円）

科目	平成30年度			平成29年度決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
学生生徒等納付金収入	5,341,819	5,330,656	11,163	5,343,091	❶ △ **12,435**	△ 0.2
手数料収入	124,138	114,578	9,560	112,046	2,532	2.3
寄付金収入	56,406	64,613	△ 8,207	213,666	❷ △ **149,053**	△ 69.8
補助金収入	947,991	875,049	72,942	1,082,030	❸ △ **206,981**	△ 19.1
資産売却収入	0	10,010	△ 10,010	428	❹ **9,582**	2238.8
付随事業・収益事業収入	58,823	48,923	9,900	74,247	❺ △ **25,324**	△ 34.1
受取利息・配当金収入	105,334	111,123	△ 5,789	111,571	△ 448	△ 0.4
雑収入	50,749	58,333	△ 7,584	52,394	5,939	11.3
借入金等収入	0	0	0	0	0	—
前受金収入	508,710	482,110	26,600	518,985	△ 36,875	△ 7.1
その他の収入	1,743,206	2,550,749	△ 807,543	2,008,260	542,489	27.0
資金収入調整勘定	△ 613,570	△ 553,808	△ 59,762	△ 672,974	119,166	△ 17.7
前年度繰越支払資金	5,678,348	5,678,350	△ 2	6,137,758	△ 459,408	△ 7.5
合　計	14,001,954	**14,770,686**	△ 768,732	14,981,505	△ **210,819**	△ 1.4

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

❶学生生徒等納付金収入　前年度比**12,435千円** 減

➡前年度に比べ入学者数が増加した一方、それを上回る退学者の発生により、前年度比**12,435千円**の**減額**となりました。

❷寄付金収入　前年度比**149,053千円** 減

➡前年度計上した法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う日本赤十字社からの助成金の減少等により、前年度比**149,053千円**の**減額**となりました。

❸補助金収入　前年度比**206,981千円** 減

➡豊田看護大学、広島看護大学及び九州国際看護大学における経常経費補助金収入の減少等の影響により、前年度比**206,981千円**の**減額**となりました。

❹資産売却収入　前年度比**9,582千円** 増

➡法人本部保有の債権の満期償還に伴う有価証券売却収入により、前年度比**9,582千円**の**増額**となりました。

❺付随事業・収益事業収入　前年度比**25,324千円** 減

➡九州国際看護大学における認定看護師養成教育事業が平成29年度に終了したため、前年度比**25,324千円**の**減額**となりました。

2 資金支出の部

資金支出合計 14,770,686千円（前年度比 210,819千円 減）

資金支出合計で、**減額**となりました。

（単位：千円）

科目	平成30年度			平成29年度決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
人件費支出	4,206,184	4,041,546	164,638	3,899,531	❶ **142,015**	3.6
教育研究経費支出	1,488,596	1,325,576	163,020	1,337,204	△ 11,628	△ 0.9
管理経費支出	393,668	372,066	21,602	420,875	❷ △ **48,809**	△ 11.6
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	—
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	—
施設関係支出	1,675,745	1,736,811	△ 61,066	70,256	❸ **1,666,555**	2372.1
設備関係支出	689,742	192,949	496,793	542,494	❹ △ **349,545**	△ 64.4
資産運用支出	830,986	1,374,080	△ 543,094	1,666,819	❺ △ **292,739**	△ 17.6
その他の支出	1,508,701	1,725,125	△ 216,424	1,829,308	△ 104,183	△ 5.7
予備費	3,100	0	3,100	0	0	—
資金支出調整勘定	△ 369,669	△ 481,076	111,407	△ 463,336	△ 17,740	3.8
翌年度繰越支払資金	3,574,901	4,483,605	△ 908,704	5,678,350	❻△ **1,194,745**	△ 21.0
合　計	14,001,954	**14,770,686**	△ 768,732	14,981,505	△ **210,819**	△ 1.4

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

❶人件費支出　前年度比142,015千円 増

➡日本赤十字看護大学におけるさいたま看護学部設置を見据えた教職員の確保に伴う人件費支出の増加及び北海道看護大学、秋田看護大学、九州国際看護大学、秋田短期大学における退職金支出の増加等の影響により、前年度比**142,015千円**の**増額**となりました。

❷管理経費支出　前年度比48,809千円 減

➡前年度計上した法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う既存建物の解体に係る業務委託費の減少等により、**48,809千円**の**減額**となりました。

❸施設関係支出　前年度比1,666,555千円 増

➡法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う建物建設により、**1,666,555千円**の**増額**となりました。

❹設備関係支出　前年度比349,545千円 減

➡前年度計上した広島看護大学及び九州国際看護大学における情報システム更新の減少等により、前年度比**349,545千円**の**減額**となりました。

❺資産運用支出　前年度比292,739千円 減

➡前年度計上した日本赤十字看護大学における有価証券購入支出の減少及び北海道看護大学、日本赤十字看護大学における施設設備整備引当金特定資産へ繰入支出の減少等の影響により、前年度比**292,739千円**の**減額**となりました。

❻翌年度繰越支払資金　前年度比1,194,745千円 減

➡翌年度繰越支払資金（現預金）は、**1,194,745千円**の**減額**となりました。

2 事業活動収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」、資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。

また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容や、基本金組入額、基本金取崩額等を含め、事業収支の均衡状態を示すものであります。

（単位：千円）

区分		科目	平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	平成30年度 差異	平成29年度 決算額	対前年度比較 増減額	対前年度比較 増減率(%)
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,341,819	5,330,656	11,163	5,343,091	❶ △ **12,435**	△ 0.2
		手数料	124,138	114,578	9,560	112,046	2,532	2.3
		寄付金	56,391	55,134	1,257	63,335	❷ △ **8,201**	△ 12.9
		経常費等補助金	945,168	875,049	70,119	1,082,030	❸ △ **206,981**	△ 19.1
		付随事業収入	58,823	48,922	9,901	74,247	❹ △ **25,325**	△ 34.1
		雑収入	50,749	57,802	△ 7,053	52,394	5,408	10.3
		計	6,577,088	6,482,141	94,947	6,727,145	△ 245,004	△ 3.6
	事業活動支出の部	人件費	4,256,268	4,087,366	168,902	4,046,653	❻ **40,713**	1.0
		教育研究経費	2,248,174	2,075,996	172,178	2,045,489	❼ **30,507**	1.5
		管理経費	426,089	421,158	4,931	450,137	❽ △ **28,979**	△ 6.4
		徴収不能額等	200	0	200	200	△ 200	—
		計	6,930,731	6,584,520	346,211	6,542,480	42,040	0.6
教育活動収支差額			△ 353,643	△ 102,379	△ 251,264	184,665	△ 287,044	△ 155.4
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	104,334	111,123	△ 6,789	111,571	△ 448	△ 0.4
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	—
		計	104,334	111,123	△ 6,789	111,571	△ 448	△ 0.4
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0	—
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	—
		計	0	0	0	0	0	—
教育活動外収支差額			104,334	111,123	△ 6,789	111,571	△ 448	△ 0.4
経常収支差額			△ 249,309	8,744	△ 258,053	296,237	△ 287,493	△ 97.0
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	10	△ 10	428	△ 418	△ 97.7
		その他の特別収入	5,009	14,536	△ 9,527	190,129	❺ △ **175,593**	△ 92.4
		計	5,009	14,546	△ 9,537	190,557	△ 176,011	△ 92.4
	事業活動支出の部	資産処分差額	5,400	16,806	△ 11,406	7,659	❾ **9,147**	119.4
		その他の特別支出	0	1,216	△ 1,216	3,495	△ 2,279	△ 65.2
		計	5,400	18,022	△ 12,622	11,154	6,868	61.6
特別収支差額			△ 391	△ 3,476	3,085	179,402	△ 182,878	△ 101.9
予備費			3,100	0	3,100	0	0	—
基本金組入前当年度収支差額			△ 252,800	5,268	△ 258,068	475,639	△ 470,371	△ 98.9
基本金組入額合計			△ 1,234,359	△ 745,614	△ 488,745	△ 541,630	△ 203,984	37.7
当年度収支差額			△ 1,487,159	△ 740,346	△ 746,813	△ 65,990	△ 674,356	1021.9
前年度繰越収支差額			1,702,547	1,702,548	△ 1	1,745,653	△ 43,105	△ 2.5
基本金取崩額			0	83,047	△ 83,047	22,885	60,162	262.9
翌年度繰越収支差額			215,388	1,045,249	△ 829,861	1,702,548	△ 657,299	△ 38.6
参考	事業活動収入計		6,686,431	6,607,810	78,621	7,029,274	△ 421,464	△ 6.0
	事業活動支出計		6,939,231	6,602,542	336,689	6,553,635	48,907	0.7

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

1 事業活動収入の部

❶学生生徒等納付金　前年度比12,435千円 減

➡前年度に比べ入学者数が増加した一方、それを上回る退学者の発生により、前年度比**12,435千円**の**減額**となりました。

❷寄付金　前年度比8,201千円 減

➡北海道看護大学及び九州国際看護大学の特別寄付金の減少等の影響により、前年度比**8,201千円**の**減額**となりました。

❸経常費等補助金　前年度比206,981千円 減

➡豊田看護大学、広島看護大学及び九州国際看護大学における経常経費補助金収入の減少の影響により、前年度比**206,981千円**の**減額**となりました。

❹付随事業収入　前年度比25,325千円 減

➡九州国際看護大学における認定看護師養成教育事業が平成29年度に終了したため、前年度比**25,325千円**の**減額**となりました。

❺その他の特別収入　前年度比175,593千円 減

➡前年度計上した法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う日本赤十字社からの施設設備寄付金の減少等により、前年度比**175,593千円**の**減額**となりました。

2 事業活動支出の部

❻人件費　前年度比40,713千円 増

➡日本赤十字看護大学におけるさいたま看護学部設置を見据えた教職員の確保に伴う人件費支出の増加等の影響により、前年度比**40,713千円**の**増額**となりました。

❼教育研究経費　前年度比30,507千円 増

➡広島看護大学及び九州国際看護大学における情報システムの減価償却費の増加等の影響により、前年度比**30,507千円**の**増額**となりました。

❽管理経費　前年度比28,979千円 減

➡前年度計上した法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う既存建物の解体に係る業務委託費の減少等により、前年度比**28,979千円**の**減額**となりました。

❾資産処分差額　前年度比9,147千円 増

➡豊田看護大学、広島看護大学、九州国際看護大学における図書の除却に伴う設備処分差額の増加等により、前年度比**9,147千円**の**増額**となりました。

3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入から組み入れた金額です。

また、基本金全体としては、745,614千円組み入れ、83,047千円取り崩しています。

（参考）基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、各校ごとに判断するため、法人本部含む5大学においては、当年度は437,614千円を組み入れ、九州国際看護大学及び秋田短期大学においては、83,047千円取り崩しました。
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、当年度は教育環境維持向上基金へ300,000千円組み入れました。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のための設定であり、当年度8,000千円組み入れました。

3 貸借対照表

資産の部、負債の部及び純資産の科目ごとに、当該会計年度末の額を前年度会計年度末の額と比較して、当該会計年度末の財産の状況を表すものです。

1 資産の部

（単位：千円）

科目＼年度		平成30年度	平成29年度	増減
資産の部	固定資産	45,186,982	43,944,103	1,242,879
	有形固定資産	23,920,709	22,779,547	❶ **1,141,162**
	特定資産	21,012,073	20,890,240	❷ **121,833**
	その他の固定資産	254,200	274,315	❸ **△ 20,115**
	流動資産	4,527,319	5,719,188	❹ **△ 1,191,869**
	資産の部合計	**49,714,301**	**49,663,292**	**51,009**

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

【資産の部】

❶有形固定資産 前年度比**1,141,162千円** 増

➡減価償却による減少の一方、法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う建物建設の影響により、有形固定資産は大幅に**増加**しました。

❷特定資産 前年度比**121,833千円** 増

➡退職給与引当特定資産が増加となり、併せて第３号基本金引当特定資産等も**増加**しました。

❸その他の固定資産 前年度比**20,115千円** 減

➡広島看護大学及び九州国際看護大学に整備した情報システムのソフトウェアの減価償却費の計上により**減少**しました。

❹流動資産 前年度比**1,191,869千円** 減

➡法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う建物建設の影響により、現金預金等が**減少**しました。

2 負債・純資産の部

（単位：千円）

科目	年度	平成30年度	平成29年度	増減
負債の部	固定負債	1,783,226	1,740,147	❶ **43,079**
	流動負債	1,139,380	1,136,717	❷ **2,663**
	負債の部合計	2,922,606	2,876,865	45,741
純資産の部	基本金	45,746,445	45,083,878	❸ **662,567**
	繰越収支差額	1,045,250	1,702,548	❹ **△ 657,298**
	純資産の部合計	46,791,695	46,786,427	5,268
負債及び純資産の部合計		**49,714,301**	**49,663,292**	**51,009**

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

【負債の部】

❶固定負債 前年度比**43,079千円** 増

➡退職給与引当金の影響により**増加**しました。

❷流動負債 前年度比**2,663千円** 増

➡年度末に計上した未払金により、**増加**しました。

【純資産の部】

❸基本金 前年度比**662,567千円** 増

➡法人本部における日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う建物建設、北海道看護大学における図書館空調設備更新等により固定資産取得による組み入れを行ったため、第１号基本金は**増加**しました。

➡教育環境維持向上基金への組み入れを計画的に実施したため、第３号基本金は**増加**しました。

➡恒常的な資金の維持として計上した資金の組み入れを行ったため、第４号基本金は若干**増加**しました。

❹繰越収支差額 前年度比**657,298千円** 減

➡基本金組入額6.6億円の増により、繰越収支差額は**減少**しました。

4 財産目録

財産目録は、平成31年3月31日現在の基本財産、運用財産、負債額を示したものです。

❶資産総額 49,714,301,548円

➡内　基本財産　**24,010,351,005円**
　　運用財産　**25,703,950,543円**

❷負債総額 2,922,606,483円

正味財産 46,791,695,065円

（単位：円）

科目	数量	金額
❶資産		**49,714,301,548**
1 基本財産		24,010,351,005
（1）土地（校舎敷地、運動場等）	205,651.48㎡	7,270,018,309
（2）建物（校舎、図書館、体育館等）	104,377.15㎡	14,131,364,466
（3）図書（和書、洋書、視聴覚資料 11,193 点）	350,903冊	1,560,422,331
（4）教具等（教具、校具、管理用備品）	18,497点	788,679,956
（5）構築物（道路舗装工事他)		151,048,465
（6）その他（車両、電話加入権等）		108,817,478
2 運用財産		25,703,950,543
（1）預金・現金		4,483,605,421
（2）積立金（施設設備整備引当特定資産等）		21,012,073,204
（3）有価証券（国債等）		154,814,500
（4）不動産（土地）		163,584
（5）長期貸付金（奨学金）		9,443,000
（6）差入保証金（敷金等）		137,490
（7）未収入金（地方公共団体補助金等）		34,403,156
（8）前払金・立替金・短期貸付金		9,310,188
❷負債		**2,922,606,483**
1 固定負債（長期未払金、退職給与引当金）		1,783,226,110
2 流動負債（前受金、未払金、預り金）		1,139,380,373
借用財産		
1 土地（校舎敷地等）	65,006.48㎡	
2 建物（寄宿舎等）	3,960.15㎡	

5 参考

1 過去5ヵ年の資金収支計算書（学校法人全体）

（単位：千円）

科目		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		
		金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)
資金収入の部	学生生徒等納付金収入	5,316,670	36.7	5,306,024	37.8	5,341,242	36.2	5,343,091	35.7	5,330,656	36.1	99.8
	手数料収入	119,365	0.8	105,433	0.8	118,718	0.8	112,046	0.7	114,578	0.8	102.3
	寄付金収入	53,956	0.4	213,031	1.5	78,832	0.5	213,666	1.4	64,613	0.4	30.2
	補助金収入	1,024,137	7.1	1,005,292	7.2	975,050	6.6	1,082,030	7.2	875,049	5.9	80.9
	資産売却収入	21,552	0.1	156,120	1.1	601,020	4.1	428	0.0	10,010	0.1	2,338.8
	付随事業・収益事業収入	199,550	1.4	101,927	0.7	89,258	0.6	74,247	0.5	48,923	0.3	65.9
	受取利息・配当金収入	143,046	1.0	143,425	1.0	128,307	0.9	111,571	0.7	111,123	0.8	99.6
	前受金収入	617,877	4.3	614,610	4.4	637,705	4.3	518,985	3.5	482,110	3.3	92.9
	その他の収入等	1,365,971	9.4	1,319,094	9.4	1,715,950	11.6	2,060,654	13.8	2,609,082	17.7	126.6
	資金収入調整勘定	△ 678,542	△ 4.7	△ 691,459	△ 4.9	△ 671,505	△ 4.5	△ 672,974	△ 4.5	△ 553,808	△ 3.7	82.3
	前年度繰越支払資金	6,315,049	43.6	5,754,965	41.0	5,753,612	39.0	6,137,758	41.0	5,678,350	38.4	92.5
	資金収入合計	14,498,633	100.0	14,028,466	100.0	14,768,192	100.0	14,981,505	100.0	14,770,686	100.0	98.6
資金支出の部	人件費支出	3,882,469	26.8	3,797,519	27.1	4,071,750	27.6	3,899,531	26.0	4,041,547	27.4	103.6
	教育研究経費支出	1,403,163	9.7	1,351,849	9.6	1,560,668	10.6	1,337,204	8.9	1,325,577	9.0	99.1
	管理経費支出	333,848	2.3	362,715	2.6	354,005	2.4	420,875	2.8	372,067	2.5	88.4
	借入金等利息・返済支出	0	–	0	–	0	–	0	–	0	–	–
	施設関係支出	17,978	0.1	42,163	0.3	24,421	0.2	70,256	0.5	1,736,811	11.8	2,472.1
	設備関係支出	161,893	1.1	123,454	0.9	184,594	1.2	542,494	3.6	192,950	1.3	35.6
	資産運用支出	1,939,079	13.4	1,373,319	9.8	1,507,966	10.2	1,666,819	11.1	1,374,080	9.3	82.4
	その他支出	1,459,519	10.1	1,568,786	11.2	1,509,891	10.2	1,829,308	12.2	1,725,125	11.7	94.3
	資金支出調整勘定	△ 454,285	△ 3.1	△ 344,955	△ 2.5	△ 582,864	△ 3.9	△ 463,336	△ 3.1	△ 481,076	△ 3.3	103.8
	翌年度繰越支払資金	5,754,965	39.7	5,753,612	41.0	6,137,758	41.6	5,678,350	37.9	4,483,605	30.4	79.0
	資金支出合計	14,498,633	100.0	14,028,466	100.0	14,768,192	100.0	14,981,505	100.0	14,770,686	100.0	98.6

＊資金収支においては、その年度の現金の動きを表示していることから、収入合計と支出合計額が一致している。
＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。
＊学校法人全体の資金収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。
＊各科目の構成比率は、それぞれの合計に占める割合となっている。

2 過去5ヵ年の事業活動収支計算書（学校法人全体）

（単位：千円）

科目			平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		
			金額	構成比率（%）	金額	構成比率（%）	金額	構成比率（%）	金額	構成比率（%）	金額	構成比率（%）	対前年比（%）
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,316,670	76.5	5,306,024	73.7	5,341,242	78.6	5,343,091	76.0	5,330,656	80.7	99.8
		手数料	119,365	1.7	105,433	1.5	118,718	1.7	112,046	1.6	114,578	1.7	102.3
		寄付金	58,117	0.8	213,956	3.0	77,502	1.1	63,335	0.9	55,134	0.8	87.1
		経常費等補助金	1,024,137	14.7	970,000	13.5	941,533	13.9	1,082,030	15.4	875,049	13.2	80.9
		付随事業収入	199,550	2.9	102,427	1.4	89,258	1.3	74,247	1.1	48,922	0.7	65.9
		雑収入	66,584	1.0	72,741	1.0	55,119	0.8	52,394	0.7	57,802	0.9	110.3
		計	6,784,425	97.6	6,770,583	94.1	6,623,373	97.5	6,727,145	95.7	6,482,141	98.1	96.4
	事業活動支出の部	人件費	3,915,071	58.6	3,893,219	59.4	4,080,546	54.8	4,046,653	61.7	4,087,366	61.9	101.0
		教育研究経費	2,362,989	35.4	2,252,363	34.4	2,299,704	30.9	2,045,489	31.2	2,075,996	31.4	101.5
		管理経費	386,286	5.8	395,789	6.0	528,602	7.1	450,137	6.9	421,158	6.4	93.6
		徴収不能額等	0	0.0	250	0.0	600	0.0	200	0.0	0	0.0	－
		計	6,664,347	99.8	6,541,621	99.8	6,909,454	92.7	6,542,480	99.8	6,584,520	99.7	100.6
	教育活動収支差額		120,077	－	228,961	－	△ 286,080	－	184,665	－	△ 102,379	－	△ 55.4
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	143,046	2.1	143,425	2.0	128,307	1.9	111,571	1.6	111,123	1.7	99.6
		その他の教育活動外収入	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－
		計	143,046	2.1	143,425	2.0	128,307	1.9	111,571	1.6	111,123	1.7	99.6
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－
		その他の教育活動外支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－
		計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－
	教育活動外収支差額		143,046	－	143,425	－	128,307	－	111,571	－	111,123	－	99.6
経常収支差額			263,124	－	372,387	－	△ 157,772	－	296,237	－	8,744	－	3.0
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	21,552	0.3	0	0.0	295	0.0	428	0.0	10	0.0	2.3
		その他の特別収入	0	0.0	281,332	3.9	43,025	0.6	190,129	2.7	14,536	0.2	7.6
		計	21,552	0.3	281,332	3.9	43,321	0.6	190,557	2.7	14,546	0.2	7.6
	事業活動支出の部	資産処分差額	16,576	0.2	8,335	0.1	536,838	7.2	7,659	0.1	16,806	0.3	219.4
		その他の特別支出	0	0.0	2,561	0.0	4,563	0.1	3,495	0.1	1,216	0.0	34.8
		計	16,576	0.2	10,896	0.2	541,401	7.3	11,154	0.2	18,022	0.3	161.6
	特別収支差額		4,975	－	270,435	－	△ 498,080	－	179,402	－	△ 3,476	－	△ 1.9
基本金組入前当年度収支差額			268,099	－	642,822	－	△ 655,852	－	475,639	－	5,268	－	1.1
基本金組入額合計			△ 655,173	－	△ 630,791	－	△ 398,397	－	△ 541,630	－	△ 745,614	－	137.7
当年度収支差額			△ 387,074	－	12,031	－	△ 1,054,249	－	△ 65,990	－	△ 740,346	－	1,121.9
前年度繰越収支差額			2,916,002	－	2,712,487	－	2,727,903	－	1,745,653	－	1,702,548	－	97.5
基本金取崩額			183,559	－	3,384	－	72,000	－	22,885	－	83,047	－	362.9
翌年度繰越収支差額			2,712,487	－	2,727,903	－	1,745,653	－	1,702,548	－	1,045,249	－	61.4

（参考）

事業活動収入計	6,949,023	100.0	7,195,341	100.0	6,795,003	100.0	7,029,274	100.0	6,607,811	100.0	94.0
事業活動支出計	6,680,923	100.0	6,552,518	100.0	7,450,855	100.0	6,553,635	100.0	6,602,543	100.0	100.7

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。
＊学校法人全体の事業活動収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。
＊各科目の構成比率は、事業活動収入計及び支出計に対して、それぞれに占める割合となっている。
＊平成26年度以前については、寄付金や補助金を教育活動収支区分にて整理し、置き換えをしている。

3 過去5ヵ年の貸借対照表（学校法人全体）

（単位：千円）

科目		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		
		金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)
資産の部	固定資産	43,173,136	88.1	43,798,268	88.2	43,057,370	87.4	43,944,103	88.5	45,186,981	90.9	102.8
	有形固定資産	24,691,871	50.4	24,180,755	48.7	22,966,464	46.6	22,779,547	45.9	23,920,708	48.1	105.0
	特定資産	17,612,192	36.0	18,922,367	38.1	20,020,170	40.6	20,890,240	42.1	21,012,073	42.3	100.6
	その他の固定資産	869,071	1.8	695,145	1.4	70,735	0.1	274,315	0.6	254,200	0.5	92.7
	流動資産	5,811,483	11.9	5,842,367	11.8	6,204,679	12.6	5,719,188	11.5	4,527,319	9.1	79.2
	うち現金預金	5,754,965	11.7	5,753,612	11.6	6,137,758	12.5	5,678,350	11.4	4,483,605	9.0	79.0
	資産の部合計	**48,984,619**	100.0	**49,640,635**	100.0	**49,262,049**	100.0	**49,663,292**	100.0	**49,714,300**	100.0	100.1

（単位：千円）

科目		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		
		金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)
負債の部	固定負債	1,506,958	3.1	1,616,968	3.3	1,604,129	3.3	1,740,147	3.5	1,783,226	3.6	102.5
	流動負債	1,153,844	2.4	1,057,027	2.1	1,347,132	2.7	1,136,717	2.3	1,139,380	2.3	100.2
	うち前受金	617,877	1.3	614,610	1.2	637,705	1.3	518,985	1.0	481,689	1.0	92.8
	負債の部合計	**2,660,802**	5.4	**2,673,996**	5.4	**2,951,262**	6.0	**2,876,865**	5.8	**2,922,606**	5.9	101.6
純資産の部	基本金	43,611,329	89.0	44,238,736	89.1	44,565,133	90.5	45,083,878	90.8	45,746,445	92.0	101.5
	第１号基本金	40,389,329	82.5	40,705,736	82.0	40,804,133	82.8	41,019,878	82.6	41,374,445	83.2	100.9
	第２号基本金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	－
	第３号基本金	2,730,000	5.6	3,030,000	6.1	3,330,000	6.8	3,630,000	7.3	3,930,000	7.9	108.3
	第４号基本金	492,000	1.0	503,000	1.0	431,000	0.9	434,000	0.9	442,000	0.9	101.8
	繰越収支差額	2,712,487	5.5	2,727,903	5.5	1,745,653	3.5	1,702,548	3.4	1,045,249	2.1	61.4
	純資産の部合計	**46,323,816**	94.6	**46,966,639**	94.6	**46,310,787**	94.0	**46,786,427**	94.2	**46,791,694**	94.1	100.0
負債の部、純資産の部合計		**48,984,619**	100.0	**49,640,635**	100.0	**49,262,049**	100.0	**49,663,292**	100.0	**49,714,300**	100.0	100.1

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

人道の理念に基づき、日本の看護・介護

学園の沿革

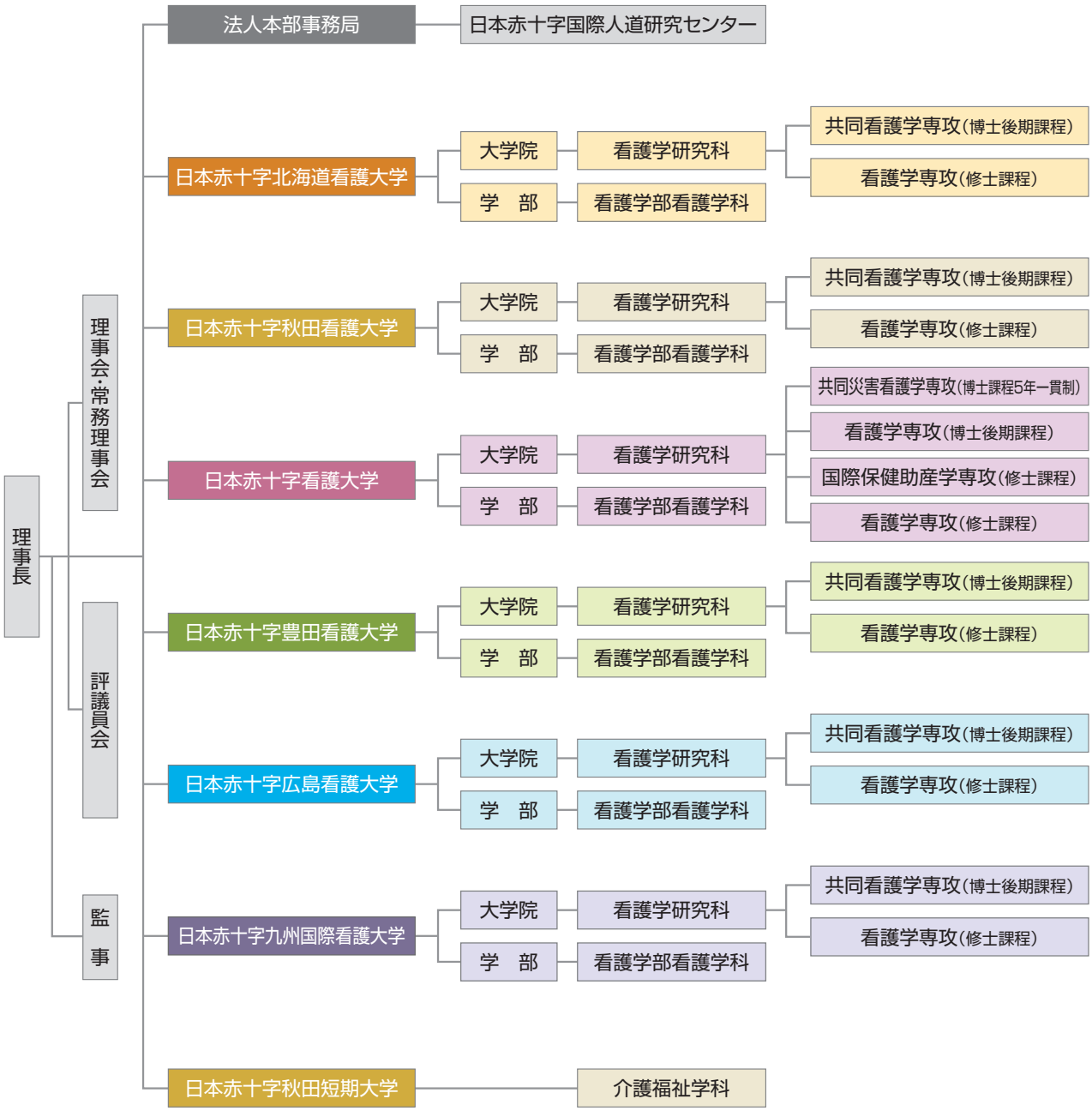
平成31年3月31日　現在

明治10年（1877年）	博愛社を設立
明治20年（1887年）	博愛社から日本赤十字社に改称
明治23年（1890年）	日本赤十字社看護婦養成所を設立
昭和21年（1946年）	日本赤十字女子専門学校に昇格
	財団法人日本赤十字女子専門学校を設立
昭和29年（1954年）	財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組
	日本赤十字女子短期大学を設立
昭和41年（1966年）	学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称
	日本赤十字女子短期大学を中央女子短期大学に改称
	日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設
昭和50年（1975年）	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を開設
昭和53年（1978年）	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校に改称
昭和61年（1986年）	日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設
昭和63年（1988年）	日本赤十字中央女子短期大学を閉校
平成元年（1989年）	日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設
	学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校を閉校
平成5年（1993年）	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成7年（1995年）	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設
平成8年（1996年）	日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設
平成9年（1997年）	日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称
	日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称
平成11年（1999年）	日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設
平成12年（2000年）	日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設
平成13年（2001年）	日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設
平成15年（2003年）	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成16年（2004年）	日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設
	日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成17年（2005年）	日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合
平成18年（2006年）	日本赤十字愛知短期大学を閉校
平成19年（2007年）	日本赤十字武蔵野短期大学を閉校
	日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成21年（2009年）	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設
平成22年（2010年）	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成23年（2011年）	日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉科
平成26年（2014年）	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設（国公私立5大学の共同教育課程）
	日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設
平成28年（2016年）	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設
	日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設（赤十字5大学の共同教育課程）

福祉を支える多くの人材を育成しています。

学園の組織

平成31年3月31日　現在



教職員の概要

平成30年5月1日現在

(単位:人)

教授	准教授	講師	助教	助手	事務職	教職員合計
93	58	57	76	25	132	441

役員・評議員一覧

平成31年3月31日　現在

◆理事（13人）

理事長	大塚 義治	平成17年4月就任	日本赤十字社 副社長
常務理事	富田 博樹	平成24年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
	弘川 摩子	平成30年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
	井上 幹雄	平成30年4月就任	学校法人日本赤十字学園法人本部 事務局長
	田村 やよひ	平成29年4月就任	日本赤十字九州国際看護大学 学長
理事	安藤 広子	平成30年4月就任	日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 学長
	片田 範子	平成30年4月就任	学校法人関西医科大学関西医科大学 看護学部長・研究科長
	鎌倉 やよい	平成29年4月就任	日本赤十字豊田看護大学 学長
	木曽 功	平成26年4月就任	学校法人加計学園 千葉科学大学 学長
	久保 公人	平成30年4月就任	学校法人尚美学園 理事長・尚美学園大学 学長
	高橋 高美	平成27年4月就任	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事
	中川原 米俊	平成26年11月就任	日本赤十字社代表支部事務局長会 会長 （日本赤十字社東京都支部 事務局長）
	吉田 元治	平成25年5月就任	日本赤十字社 参与

◆監事（2人）

監事	堀野 政則	平成24年4月就任	日本赤十字社 参与
	山田 幸太郎	平成25年4月就任	山田公認会計士事務所 代表

◆評議員（27人）

明石 直樹　日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 事務局（部）長
石﨑 智子　日本赤十字北海道看護大学 看護学部長
石渡 祥子　赤十字医療施設看護部長会 会長（成田赤十字病院 副院長兼看護部長）
稲岡 文昭　日本赤十字広島看護大学 名誉学長
井上 幹雄　学校法人日本赤十字学園法人本部 事務局長
大塚 義治　日本赤十字社 副社長
大給 乗龍　日本赤十字社 参与
梶本 章　明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 兼任講師
河口 てる子　日本赤十字北海道看護大学 学長
木曽 功　学校法人加計学園千葉科学大学 学長
金 愛子　元石巻赤十字病院 副院長兼看護部長
小山 眞理子　日本赤十字広島看護大学 学長
島崎 謙治　国立大学法人政策研究大学院大学 教授
鈴木 隆雄　桜美林大学老年学総合研究所 所長
（国立長寿医療研究センター 研究所総長特任補佐）
高島 和歌子　学校法人華苑学園熊本看護専門学校 学校長
高田 早苗　日本赤十字看護大学 学長
高橋 高美　一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事
富田 博樹　日本赤十字社医療事業推進本部 本部長
中川原 米俊　日本赤十字社代表支部事務局長会 会長
（日本赤十字社東京都支部 事務局長）
畠山 悦子　元 長野赤十字病院 看護部長
百田 武司　日本赤十字広島看護大学 研究科長
弘川 摩子　日本赤十字社医療事業推進本部　副本部長兼看護部長
古橋 美智子　公益社団法人日本看護協会 前監事
光峰 常美　元 公益社団法人愛媛県看護協会 専務理事
望月 律子　元 静岡赤十字病院 副院長兼看護部長
吉田 茂夫　日本赤十字社病院長連盟 会長（北見赤十字病院 院長）
吉田 元治　日本赤十字社 参与

理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

理事会	臨　時 平成30年4月19日（木） 第3回 平成31年3月22日（金）	第1回 平成30年5月23日（水）	第2回 平成30年12月3日（月）
常務理事会	第1回 平成30年4月9日（月） 第4回 平成30年9月3日（月） 第7回 平成30年12月17日（月） 第10回 平成31年3月4日（月）	第2回 平成30年5月14日（月） 第5回 平成30年10月1日（月） 第8回 平成31年1月15日（火）	第3回 平成30年7月9日（月） 第6回 平成30年11月5日（月） 第9回 平成31年2月4日（月）
評議員会	臨　時 平成30年5月9日（水） 第3回 平成31年3月22日（金）	第1回 平成30年5月23日（水）	第2回 平成30年12月3日（月）

各大学・短期大学の施設概要

日本赤十字 北海道看護大学

[住所] 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
[電話] **0157-66-3311**　[URL]**http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/**
[施設面積] 校地:59,797m²／校舎等:16,993m²

日本赤十字 秋田看護大学・短期大学

[住所] 〒010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
[電話] **018-829-4000**　[URL]**https://www.rcakita.ac.jp/**
[施設面積] 校地:43,599m²／校舎等:13,771m²

日本赤十字 看護大学

[住所] 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
[電話] **03-3409-0875**　[URL]**https://www.redcross.ac.jp/**
[施設面積] 校地:18,216m²／校舎等:15,695m²

日本赤十字 豊田看護大学

[住所] 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12-33
[電話] **0565-36-5111**　[URL]**http://www.rctoyota.ac.jp/**
[施設面積] 校地:19,710m²／校舎等:17,954m²

日本赤十字 広島看護大学

[住所] 〒738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2
[電話] **0829-20-2800**　[URL]**https://www.jrchcn.ac.jp/**
[施設面積] 校地:29,882m²／校舎等:19,438m²

日本赤十字 九州国際看護大学

[住所] 〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1-1
[電話] **0940-35-7001**　[URL]**https://www.jrckicn.ac.jp/**
[施設面積] 校地:34,456m²／校舎等:15,097m²

学校法人日本赤十字学園

［法人本部事務局］
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル西館6階
TEL.03-5472-2836 FAX.03-5472-2837 赤十字学園 検索